

申 命 記

第一章

「これはヨルダンの向こうの荒野、パ
ランと、トベル、ラバン、ハゼロテ、デザハブとの間の、
スフの前にあるアラバにおいて、モーセがイスラエルの
すべての人に告げた言葉である。ニホレブからセイル山
の道を経て、カデシ・バルネアに達するには、十一日の
道のりである。第四十年の十一月となり、その月の一
日に、モーセはイスラエルの人々にむかって、主が彼ら
のため彼に授けられた命令を、ことごとく告げた。こ
れはモーセがヘシボンに住んでいたアモリびとの王シホ
ン、およびアシタロテとエドレイとに住んでいたバシヤ
ンの王オグを殺した後であった。五すなわちモーセはヨ
ルダンの向こうのモアブの地で、みずから、この律法の
説明に当った、そして言った、『われわれの神、主はホ
レブにおいて、われわれに言われた、『あなたがたはすで
に久しく、この山にとどまっていたが、七身をめぐらし
て道に進み、アモリびとの山地に行き、その近隣のすべ
ての所、アラバ、山地、低地、ネゲブ、海、カナンび
との地、またレバノンに行き、大川ユーフラテにまで行き
なさい。八見よ、わたしはこの地をあなたがたの前に置
いた。この地にはいつて、それを自分のものとしなさい。

これは主が、あなたがたの先祖アブラハム、イサク、ヤ
コブに誓って、彼らとその後の子孫に与えると言われた
所である。』

九あの時、わたしはあなたがたに言った、『わたしはひ
とりであなたがたを負うことができない。一〇あなたが
たの神、主はあなたがたを多くされたので、あなたが
たは、きょう、空の星のように多い。一一どうぞ、あ
なたがたの先祖の神、主があなたがたを、今あるより千
倍も多くし、またあなたがたに約束されたように、あな
たがたを恵んでくださるように。一二わたしひとりで、
どうして、あなたがたを負い、あなたがたの重荷と、あ
なたがたの争いを処理することができようか。一三あな
たがたは、おのおの部族ごとに、知恵があり、知識が
あって、人に知られている人々を選び出しなさい。わた
しはその人々を、あなたがたのかしらとするであろう。』
一四その時、あなたがたはわたしに答えた、『あなたがしよ
うと言われることは良いことです。一五そこで、わたし
は、あなたがたのうちから、知恵があり、人に知られて
いる人々を取って、あなたがたのかしらとした。すなわ
ち千人の長、百人の長、五十人の長、十人の長とし、ま
た、あなたがたの部族のつかさびととした。一六また、あ
のとき、わたしはあなたがたのさばきびとたちに命じて
言った、『あなたがたは、兄弟たちの間の訴えを聞き、人
とその兄弟、または寄留の他国人との間を、正しくさば

かなければならない。一七あなたがたは、さばきをする時、人を片寄り見てはならない。小さい者にも大いなる者にも聞かなければならない。人の顔を恐れてはならない。さばきは神の事だからである。あなたがたで決めるのにむずかしい事は、わたしのところに持つてこなければならぬ。わたしはそれを聞くであろう。一八わたしはまた、あの時、あなたがたがしなければならぬことを、ことごとく命じた。

一九われわれの神、主が命じられたように、われわれは、ホレブを出立して、あなたがたが見た、あの大きな恐ろしい荒野を通り、アモリびとの山地へ行く道によって、カデシ・バルネアにきた。二〇その時わたしはあなたがたに言った、『あなたがたは、われわれの神、主がお与えになるアモリびとの山地に着いた。二一見よ、あなたの神、主はこの地をあなたの前に置かれた。あなたの先祖の神、主が告げられたように、上って行って、これを自分のものとしなさい。恐れてはならない。おののいてはならない。』二三あなたがたは皆わたしに近寄って言った、『われわれは人をさきにつかわして、その地を探らせ、どの道から上るべきか、どの町々に入るべきかを、復命させましょう。』二四このことは良いと思つたので、わたしはあなたがたのうち、おのおのの部族から、ひとりずつ十二人の者を選んだ。二五彼らは身をめぐらして、山地に上って行き、エシコルの谷へ行ってそれを探り、二六その地の

くだものを手に取つて、われわれのところに持つて下り、復命して言った、『われわれの神、主が賜わる地は良い地です。』

二七しかし、あなたがたは上って行くことを好まないで、あなたがたの神、主の命令にそむいた。二八そして天幕でつぶやいて言った、『主はわれわれを憎んでアモリびとの手に渡し、滅ぼそうとしてエジプトの国から導き出されたのだ。二九われわれはどこへ上って行くのか。兄弟たちは、『その民はわれわれよりも大きくて、背も高い。町々は大きく、その石がきは天に届いている。われわれは、またアナクびとの子孫をその所で見た』と言って、われわれの心をくじいた。三〇その時、わたしはあなたがたに言った、『彼らをこわがってはならない。また恐れてはならない。三一先に立つて行かれるあなたがたの神、主はエジプトにおいて、あなたがたの目の前で、すべてのことを行われたように、あなたがたのために戦われるであらう。』三二あなたがたはまた荒野で、あなたの神、主が、人のその子を抱くように、あなたを抱かれるのを見た。あなたがたが、この所に来るまで、その道すがら、いつもそうであった。三三このように言つても、あなたがたはなお、あなたがたの神、主を信じなかった。三三主は道あなたをたの先に立つて行き、あなたがたが宿営する場所を捜し、夜は火のうちにあり、昼は雲のうちにあって、あなたがたに行くべき道を示された。

「主は、あなたがたの言葉を聞いて怒り、誓って言われた、^三『この悪い世代の人々のうちには、わたしが、あなたがたの先祖たちに与えたと誓ったあの良い地を見る者は、ひとりもないであろう。^{三六}ただエフソネの子カルブだけはそれを見ることができよう。彼が踏んだ地を、わたしは彼とその子孫に与えよう。彼が全く主に従ったからである』。^{三七}主はまた、あなたがたのゆえに、わたしをも怒って言われた、『おまえもまた、そこにはいることができないであろう。^{三八}おまえに仕えていゝるヌンの子ヨシユアが、そこにはいるであろう。彼を力づけよ。彼はイスラエルにそれを獲させるであろう。^{三九}またあなたがたが、かすめられるであろうと言ったあなたがたのおさなごたち、およびその日にまだ善悪をわきまえないあなたがたの子供たちが、そこにはいるであろう。わたしはそれを彼らに与える。彼らはそれを所有とするであろう。^{四〇}あなたがたは身をめぐらし、紅海の道によって、荒野に進んで行きなさい』。

「しかし、あなたがたはわたしに答えて言った、『われわれは主にむかって罪を犯しました。われわれの神、主が命じられたように、われわれは上って行って戦いましょう』。そして、おのおの武器を身に帯びて、かるがしく山地へ上って行こうとした。^{四二}その時、主はわたしに言われた、『彼らに言いなさい、「あなたがたは上って行ってはならない。また戦ってはならない。わたしはあ

なたがたのうちにいない。おそろく、あなたがたは敵に撃ち敗れるであろう』。^{四三}このようにわたしが告げたのに、あなたがたは聞かないで主の命令にそむき、ほしのままに山地へ上って行ったが、^{四四}その山地に住んでいゝるアモリびとが、あなたがたに向かつて出てきて、はちが追うように、あなたがたを追いかけて、セイルで撃ち敗れて、ホルマにまで及んだ。^{四五}あなたがたは帰ってきて、主の前で泣いたが、主はあなたがたの声を聞かず、あなたがたに耳を傾けられなかった。^{四六}こうしてあなたがたは、日久しくカデシにとどまった。あなたがたのそこにとどまった日数のとおりである。

第二章

「それから、われわれは身をめぐらし、主がわたしに告げられたように、紅海の方に向かつて荒野に進み入り、日久しくセイル山を行きめぐっていたが、^一主はわたしに言われた、『あなたがたは既に久しくこの山を行きめぐっているが、身をめぐらして北に進みなさい。^二おまえはまた民に命じて言え、「あなたがたは、エサウの子孫、すなわちセイルに住んでいるあなたがたの兄弟の領内を通ろうとしている。彼らはあなたがたを恐れるであろう。それゆえ、あなたがたはみずから深く慎み、^五彼らと争ってはならない。彼らの地は、足の裏で踏むほどでも、あなたがたに与えないであろう。わたしがセイル山をエサウに与えて、領地とさせたからである。^六あなたがたは彼らから金で食物を買って食べ、ま

た金で水を買って飲まなければならぬ。あなたの神、主が、あなたのするすべての事において、あなたを恵み、あなたがこの大いなる荒野を通るのを、見守られたからである。あなたの神、主がこの四十年の間、あなたと共にいられたので、あなたは何も乏しいことがなかった。』
 八 こうしてわれわれは、エサウの子孫でセイルに住んでいる兄弟を離れ、アラバの道を避け、エラテとエジオン、ゲベルを離れて進んだ。

われわれは転じて、モアブの荒野の方に向かって進んだ。九 その時、主はわたしに言われた、『モアブを敵視してはならない。またそれと争い戦ってはならない。彼らの地は、領地としてあなたに与えない。ロトの子孫にアルを与えて、領地とさせたからである。一〇（むかし、エミびとがこの所に住んでいた。この民は大いなる民であつて、数も多く、アナクびとのように背も高く、二またアナクびとと同じくレバイムであると、みなされていたが、モアブびとは、これをエミびとと呼んでいた。三 ホリびとも、むかしはセイルに住んでいたが、エサウの子孫がこれを追い払い、これを滅ぼし、彼らに代つてそこに住んだ。主が賜わった所有の地に、イスラエルがおこなったのと同じである。』
 四 あなたがたは、いま、立ちあがつてゼレデ川を渡りなさい。』そこでわれわれはゼレデ川を渡った。一四 カデシ・バルネアを出てこのかた、ゼレデ川を渡るまでの間の日は三十八年であつて、その

世代のいくさびとはみな死に絶えて、宿営のうちにいなくなつた。主が彼らに誓われたとおりである。二五 ことに主の手が彼らを攻め、宿営のうちから滅ぼし去られたので、彼らはついに死に絶えた。

二六 いくさびとがみな民のうちから死に絶えたとき、主はわたしに言われた、『おまえは、きよう、モアブの領地アルを通ろうとしている。一九 アンモンの子孫に近づくと、おまえは彼らを敵視してはならない。また争つてはならない。わたしはアンモンの子孫の地を領地として、おまえに与えない。それをロトの子孫に領地として与えたからである。二〇（これもまたレバイムの国とみなされた。むかし、レバイムがここに住んでいたからである。しかし、アンモンびとは彼らをザムズミびとと呼んだ。三 この民は大いなる民であつて数も多く、アナクびとのように背も高かつたが、主はアンモンびとの前から、これを滅ぼされ、アンモンびとがこれを追い払つて、彼らに代つてそこに住んだ。三 この事は、セイルに住んでいるエサウの子孫のためにその前から、ホリびとを滅ぼされたのと同じである。彼らはホリびとを追い払い、これに代つて今日までそこに住んでいる。三三 またカフトルから出たカフトルびとは、ガザにまで及ぶ村々に住んでいたアビびとを滅ぼして、これに代つてそこに住んでいる。』
 三四 あなたがたは立ちあがり、進んでアルノン川を渡りなさい。わたしはヘシボンの王アモリびとシホンと

その国とを、おまえの手に渡した。それを征服し始めよ。彼と争って戦え。二五きょうから、わたしは全天下の民に、おまえをおびえ恐れさせるであろう。彼らはおまえのうわさを聞いて震え、おまえのために苦しむであろう。』

二六そこでわたしは、ケデモテの荒野から、ヘシボンの王シホンに使者をつかわし、平和の言葉を述べさせた。二七『あなたの国を通らせてください。わたしは大路をとおっていきます、右にも左にも曲りません。二八金で食物を売ってわたしに食べさせ、金をとって水を与えてわたしに飲ませてください。徒歩で通らせてくださるだけでよいのです。二九セイルに住むエサウの子孫と、アルに住むモアブびとが、わたしにしたようにしてください。そうすれば、わたしはヨルダンを渡って、われわれの神、主が賜わる地に行きます。』三〇しかし、ヘシボンの王シホンは、われわれを通らせるのを好まなかった。あなたの神、主が彼をあなたの手に渡すため、その氣を強くし、その心をかたくなにされたからである。今日見るとおりである。三一時に主はわたしに言われた、『わたしはシホンと、その地とを、おまえに渡し始めた。おまえはそれを征服しはじめ、その地を自分のものとせよ。』三二そこでシホンは、われわれを攻めようとして、その民をことごとく率い、出てきてヤハズで戦ったが、三三われわれの神、主が彼を渡されたので、われわれは彼とその子らと、そのすべての民とを撃ち殺した。三四その時、われわれは彼

のすべての町を取り、そのすべての町の男、女および子供を全く滅ぼして、ひとりをも残さなかった。三五ただその家畜は、われわれが取った町々のぶんどり物と共に、われわれが獲て自分の物とした。三六アルノンの谷のほとりにあるアロエルおよび谷の中にある町からギレアデに至るまで、われわれが攻めて取れなかった町は一つもなかった。われわれの神、主がことごとくわれわれに渡されたのである。三七ただアンモンの子孫の地、すなわちヤボク川の全岸、および山地の町々、またすべてわれわれの神、主が禁じられた所には近寄らなかった。

第三章

一そしてわれわれは身をめぐらして、パ

シヤンの道を上って行ったが、パシヤンの王オグは、われわれを迎え撃とうとして、その民をことごとく率い、出てきてエデレイで戦った。二時に主はわたしに言われた、『彼を恐れてはならない。わたしは彼と、そのすべての民と、その地をおまえの手に渡している。おまえはヘシボンに住んでいたアモリびとの王シホンにしたように、彼にするであろう。』三こうしてわれわれの神、主はパシヤンの王オグと、そのすべての民を、われわれの手に渡されたので、われわれはこれを撃ち殺して、ひとりをも残さなかった。四その時、われわれは彼の町々を、ことごとく取った。われわれが取らなかった町は一つもなかった。取った町は六十。アルゴブの全地方であつて、パシヤンにおけるオグの国である。五これらは皆、高い石

がきがあり、門があり、貫の木の堅固な町であつた。このほかに石がきのない町は、非常に多かつた。われはヘシボンの王シホンにしたように、これらを全く滅ぼし、そのすべての町の男、女および子供をことごとく滅ぼした。ただし、そのすべての家畜と、その町々からのぶんどり物とは、われわれが獲て自分の物とした。その時われわれはヨルダンの向こう側にいるアモリびとのふたりの王の手から、アルノン川からヘルモン山までの地を取った。(シドンびとはヘルモンをシリオンと呼び、アモリびとはこれをセニルと呼んでいる)。すなわち高原のすべての町、ギレアデの全地、バシヤンの全地、サルカおよびエデレイまで、バシヤンにあるオグの国の町々をことごとく取った。(バシヤンの王オグはレバイムのただひとりの生存者であつた。彼の寝台は鉄の寝台であつた。これは今なおアンモンびとのラバにあるではないか。これは普通のキュビト尺で、長さ九キュビト、幅四キュビトである。)

三その時われわれは、この地を獲た。そしてわたしはアルノン川のほとりのアロエルから始まる地と、ギレアデの山地の半ばと、その町々とは、ルベンびとと、ガドびととに与えた。三わたしはまたギレアデの残りの地と、オグの国であつたバシヤンの全地とは、マナセの半部族に与えた。すなわちアルゴブの全地方である。(そのバシヤンの全地はレバイムの国と唱えられる。四マナセの

子ヤイルは、アルゴブの全地方を取つて、ゲシユルびとと、マアカびとの境にまで達し、自分の名にしたがつて、バシヤンをハボテ・ヤイルと名づけた。この名は今日にまでおよんでいる。五またわたしはマキルにはギレアデを与えた。六ルベンびとと、ガドびととは、ギレアデからアルノン川までを与え、その川のまん中をもつて境とし、またアンモンびとの境であるヤボク川にまで達せしめた。七またヨルダンを境として、キンネレテからアラバの海すなわち塩の海まで、アラバをこれに与えて、東の方ピスガのふもとに達せしめた。

八その時わたしはあなたがたに命じて言った、『あなたがたの神、主はこの地をあなたがたに与えて、これを獲させられるから、あなたがた勇士はみな武装して、兄弟であるイスラエルの人々に先立つて、渡って行かなければならない。九ただし、あなたがたの妻と、子供と、家畜とは、わたしが与えた町々にとどまらなければならぬ。(わたしはあなたがたが多くの家畜を持っているのを知っている。十主がすでにあなたがたに与えられたように、あなたがたの兄弟にも安息を与えられて、彼らもまたヨルダンの向こう側で、あなたがたの神、主が与えられる地を獲るようになったならば、あなたがたはおのおのわたしがあなたがたに与えた領地に帰ることができ』。十一その時わたしはヨシユアに命じて言った、『あなたの目はあなたがたの神、主がこのふたりの王に行われ

たすべてのことを見た。主はまたあなたが渡って行くもろもろの国にも、同じように行われるであろう。三彼らを恐れてはならない。あなたがたの神、主があなたがたのために戦われるからである。』

三その時わたしは主に願って言った、二『主なる神よ、あなたの大いなる事と、あなたの強い手とを、たった今しもべに示し始められました。天にも地にも、あなたのようなわざをなし、あなたのような力あるわざのできる神が、ほかにありましようか。二五どうぞ、わたしにヨルダンを渡って行かせ、その向こう側の良い地、あの良い山地、およびレバノンを見ることのできるようにしてください。』三六しかし主はあなたがたのゆえにわたしを怒り、わたしに聞かれなかった。そして主はわたしに言われた、『おまえはもはや足りている。この事については、重ねてわたしに言ってはならない。三七おまえはビスガの頂に登り、目をあげて西、北、南、東を望み見よ。おまえはこのヨルダンを渡ることができないからである。三八しかし、おまえはヨシユアに命じ、彼を励まし、彼を強くせよ。彼はこの民に先立って渡って行き、彼らにおまえの見る地を継がせるであろう。』三九こうしてわれわれはベテベオルに対する谷にとどまっていた。

第四章 イスラエルよ、いま、わたしがあなたに教える定めと、おきてとを聞いて、これを行いなさい。そうすれば、あなたがたは生きることができ、

あなたがたの先祖の神、主が賜わる地にはいつて、それを自分のものとすることができよう。二わたしがあなたがたに命じる言葉に付け加えてはならない。また滅らしてはならない。わたしが命じるあなたがたの神、主の命令を守ることでできるためである。三あなたがたの目は、主がバアル・ペオルで行われたことを見た。バアルのバアルに従った人々は、あなたの神、主がことごとく、あなたのうちから滅ぼしつくされたのである。四しかし、あなたがたの神、主につき従ったあなたがたは皆、きょう、生きながらえている。五わたしはわたしの神、主が命じられたとおりに、定めと、おきてとを、あなたがたに教える。あなたがたがはいって、自分のものとする地において、そのように行うためである。六あなたがたは、これを守って行わなければならない。これは、もろもろの民にあなたがたの知恵、また知識を示す事である。彼らは、このもろもろの定めを聞いて、『この大いなる国民は、まことに知恵あり、知識ある民である』と言うであろう。七われわれの神、主は、われわれが呼び求める時、つねにわれわれに近くおられる。いづれの大いなる国民に、このように近くおる神があるであろうか。八また、いづれの大いなる国民に、きょう、わたしがあなたがたの前に立てるこのすべての律法のような正しい定めと、おきてとがあるであろうか。

九ただあなたはみずから慎み、またあなたがた自身をよく

守りなさい。そして目に見たことを忘れず、生きながらえている間、それらの事をあなたの心から離してはならない。またそれらのことを、あなたの子孫に知らせなければならぬ。あなたがホレブにおいて、あなたの神主の前に立った日に、主はわたしに言われた、『民をわたしのもとに集めよ。わたしは彼らにわたしの言葉を聞かせ、地上に生きながらえる間、彼らにわたしを恐れることを学ばせ、またその子供を教えることのできるようにさせよう』。二そこであなたがたは近づいて、山のふもとに立ったが、山は火で焼けて、その炎は中天に達し、暗黒と雲と濃い雲とがあった。三時に主は火の中から、あなたがたに語られたが、あなたがたは言葉の声を聞いたけれども、声ばかりで、なんの形も見なかった。四主はその契約を述べて、それを行うように、あなたがたに命じられた。それはすなわち十誡であって、主はそれを二枚の石の板に書きしるされた。五その時、主はわたしに命じて、あなたがたに定めと、おきてとを教えさせられた。あなたがたが渡って行って自分のものとする地で、行わせるためであった。

六それゆえ、あなたがたはみずから深く慎まなければならぬ。ホレブで主が火の中からあなたがたに語られた日に、あなたがたはなんの形も見なかった。七それであなたがたは道を誤って、自分のために、どんな形の刻んだ像をも造ってはならない。男または女の像を造って

はならない。八すなわち地の上におるもろもろの獣の像、空を飛ぶもろもろの鳥の像、九地に這うもろもろの物の像、地の下の水の中におるもろもろの魚の像を造ってはならない。一〇あなたはまた目を上げて天を望み、日月、星すなわちすべて天の万象を見、誘惑されてそれを拝み、それに仕えてはならない。それらのものは、あなたの神主が全天下の万民に分けられたものである。一一しかし、主はあなたがたを取って、鉄の炉すなわちエジプトから導き出し、自分の所有の民とされた。きよう、見るとおりである。一二ところで主はあなたがたのゆえに、わたしを怒り、わたしがヨルダンを渡って行くことができないことと、あなたの神、主が嗣業としてあなたに賜わる良い地にはいることができないことを誓われた。三わたしはこの地で死ぬ。ヨルダンを渡って行くことはできない。しかしあなたがたは渡って行って、あの良い地を獲得であろう。四あなたがたは慎み、あなたがたの神、主があなたがたと結ばれた契約を忘れて、あなたがたの神、主が禁じられたどんな形の刻んだ像をも造ってはならない。五あなたがたの神、主は焼きつくす火、ねたむ神である。

六あなたがたが子を生み、孫を得、長くその地におるうちに、道を誤って、すべて何かの形に刻んだ像を造り、あなたの神、主の目の前に悪をなして、その憤りを引き起すことがあれば、七わたしは、きよう、天と地を呼んであなたがたに対してあかしとする。あなたがたはヨ

ルダンを渡って行って獲る地から、たちまち全滅するであろう。あなたがたはその所で長く命を保つことができず、全く滅ぼされるであろう。三七主はあなたがたを国々に散らされるであろう。そして主があなたがたを追いやられる国民のうちに、あなたがたの残る者の数は少ないであろう。三八その所でああなたがたは人が手で作った、見ることも、聞くことも、食することも、かぐこともない木や石の神々に仕えるであろう。三九しかし、その所からあなたがたの神、主を求め、もし心をつくし、精神をつくして、主を求めるならば、あなたは主に会うであろう。四〇後の日になって、あなたがたがなやみにあい、これらのすべての事が、あなたがたに臨むとき、もしあなたの神、主に立ち帰ってその声に聞きたがうならば、三一あなたの神、主はいつくしみの深い神であるから、あなたがたを捨てず、あなたがたを滅ぼさず、またあなたの先祖に誓った契約を忘れられないであろう。

三二試みにあなたがたの前に過ぎ去った日について問え。神が地上に人を造られた日からこのかた、天のこの端から、かの端までに、かつてこのように大いなる事があったであろうか。三三このようなことを聞いたことがあったであろうか。三三火の中から語られる神の声をあなたが聞いたように、聞いてなお生きていた民がかつてあったであろうか。三四あるいはまた、あなたがたの神、主がエジプトにおいて、あなたがたの目の前に、あなたがたのためにも

ろもろの事をなされたように、試みと、しるしと、不思議と、戦いと、強い手と、伸ばした腕と、大いなる恐るべき事をもつて臨み、一つの国民を他の国民のうちから引き出して、自分の民とされた神が、かつてあったであろうか。三五あなたがたにこの事を示したのは、主こそ神であつて、ほかに神のないことを知らせるためであつた。三六あなたがたを訓練するために、主は天からその声を聞かせ、地上では、またその大いなる火を示された。あなたはその言葉が火の中から出るのを聞いた。三七主はあなたの先祖たちを愛されたので、その後の子孫を選び、大いなる力をもつて、みずからあなたがたをエジプトから導き出し、三八あなたがたよりも大きく、かつ強いろもろの国民を、あなたの前から追い払い、あなたがたをその地に導き入れて、これを嗣業としてあなたがたに与えようとされること、今日見るとおりである。三九それゆえ、あなたは、きょう知つて、心にとめなければならぬ。上は天、下は地において、主こそ神にいまし、ほかに神のないことを。四〇あなたは、きょう、わたしが命じる主の定めと命令とを守らなければならぬ。そうすれば、あなたがたとあなたの後の子孫はさいわいを得、あなたの神、主が永久にあなたがたに賜わる地において、長く命を保つことができるであろう。四一それからモーセはヨルダンの向こう側、東の方に三つの町々を指定した。四二過去の恨みによるのではなく、あやまって隣人を殺した者をそこにのがれさせ、その町

の一つにのがれて、命を全うさせるためであつた。三すなわちルベンびとのためには荒野の中の高地にあるベゼルを、ガドびとのためにはギレアドのラモテを、マナセびとのためにはバシヤンのゴランを定めた。

四 モーセがイスラエルの人々の前に示した律法はこれである。五 イスラエルの人々がエジプトから出たとき、モーセが彼らに述べたあかしと、定めと、おきてとはこれである。六 すなわちヨルダンの向こう側、アモリびとの王シホンの国のベテベオルに対する谷においてこれを述べた。シホンはヘシボンに住んでいたが、モーセとイスラエルの人々が、エジプトを出てきた時、これを撃ち敗つて、七 その国を獲、またバシヤンの王オグの国を獲た。このふたりはアモリびとの王であつて、ヨルダンの向こう側、東の方におつた。八 彼らの獲た地はアルノン川のほとりにあるアロエルからシリオン山すなわちヘルモンに及び、九 ヨルダンの東側のアラバの全部をかねて、アラバの海に達し、ピスガのふもとに及んだ。

第五章 一 さてモーセはイスラエルのすべての人を召し寄せて言った、「イスラエルよ、きょう、わたしがあなたがたの耳に語る定めと、おきてを聞き、これを学び、これを守って行え。二 われわれの神、主はホレブで、われわれと契約を結ばれた。三 主はこの契約をわれわれの先祖たちとは結ばず、きょう、ここに生きながらえてゐるわれわれすべての者と結ばれた。四 主は山で火

の中から、あなたがたと顔を合わせて語られた。五 その時、わたしは主とあなたがたとの間に立つて主の言葉をあなたがたに伝えた。あなたがたは火のゆえに恐れて山に登ることができなかつたからである。主は言われた、六 『わたしはあなたの神、主であつて、あなたをエジプトの地、奴隸の家から導き出した者である。七 あなたはわたしのほかに何ものをも神としてはならない。

八 あなたは自分のために刻んだ像を造つてはならない。九 上は天にあるもの、下は地にあるもの、また地の下の水の中にあるものの、どのような形をも造つてはならない。十 それを拜んではならない。またそれに仕えてはならない。あなたの神、主であるわたしは、ねたむ神であるから、わたしを憎むものには、父の罪を子に報いて三、四代に及びし、五 わたしを愛し、わたしの戒めを守る者には恵みを施して千代に至るであらう。

六 あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない。主はその名をみだりに唱える者を罰しないではおかないであらう。

七 安息日を守つてこれを聖とし、あなたの神、主があなたに命じられたようにせよ。八 六日のあいだ働いて、あなたのすべてのわざをしなければならぬ。九 七日目はあなたの神、主の安息であるから、なんのわざをもしてはならない。あなたがたも、あなたがたのむすこ、娘、しもべ、

はしため、牛、ろば、もろもろの家畜も、あなたの門のうちにおる他国の人も同じである。こうしてあなたのしもべ、はしためを、あなたと同じように休ませなければならぬ。二五 あなたはかつてエジプトの地で奴隷であつたが、あなたの神、主が強い手と、伸ばした腕とをもつて、そこからあなたを導き出されたことを覚えなければならぬ。それゆえ、あなたの神、主は安息日を守ることを命じられるのである。

二六 あなたの神、主が命じられたように、あなたの父と母とを敬え。あなたの神、主が賜はる地で、あなたが長く命を保ち、さいわいを得ることのできるためである。

二七 あなたは殺してはならない。

二八 あなたは姦淫してはならない。

二九 あなたは盗んではならない。

三〇 あなたは隣人について偽証してはならない。

三一 あなたは隣人の妻をむさぼってはならない。また隣

人の家、畑、しもべ、はしため、牛、ろば、またすべて

隣人のものをほしがってはならない。

三二 主はこれらの言葉を山で火の中、雲の中、濃い雲の中から、大いなる声をもって、あなたがたの全会衆に告げになったが、このほかのことは言われず、二枚の石の板にこれを書きしるして、わたしに授けられた。三三 時に山は火で燃えていたが、あなたがたが暗黒のうちから聞える声を聞くに及んで、あなたがたの部族のすべての

かしらと長老たちは、わたしに近寄って、二四 言った、『われわれの神、主がその栄光と、その大いなることをわれわれに示されて、われわれは火の中から出るその声を聞きました。きよう、われわれは神が人と語られ、しかもなおその人が生きているのを見ました。二五 われわれはなぜ死ななければならぬでしょうか。この大いなる火はわれわれを焼き滅ぼそうとしています。もしこの上なおわれわれの神、主の声を聞くならば、われわれは死んでしまふでしょう。二六 およそ肉なる者のうち、だれが火の中から語られる生ける神の声を、われわれのように聞いてなお生きてゐる者がありましたでしょうか。二七 あなたはどうぞ近く進んで行って、われわれの神、主が言われることをみな聞き、われわれの神、主があなたにお告げになることをすべてわれわれに告げてください。われわれは聞いて行きます。』

二八 あなたがたがわたしに語っている時、主はあなたがたの言葉を聞いて、わたしに言われた、『わたしはこの民がおまえに語っている言葉を聞いた。彼らの言ったことはみな良い。二九 ただ願わしいことは、彼らがつねにこのような心をもってわたしを恐れ、わたしのすべての命令を守って、彼らもその子孫も永久にさいわいを得るにいたることである。三〇 おまえは行って彼らに、『あなたがたはおのおのその天幕に帰れ』と言え。三十一 しかし、おまえはこの所でわたしのそばに立て。わたしはすべての命令

と、定めと、おきてとをおまえに告げ示すであらう。おまえはこれを彼らに教え、わたしが彼らに与えて獲させる地において、これを行わせなければならぬ。』^三それゆえ、あなたがたの神、主が命じられたとおりに、慎んで行わなければならない。そして左にも右にも曲ってはならない。^三あなたがたの神、主が命じられた道に歩まなければならない。そうすればあなたがたは生きることででき、かつさいわいを得て、あなたがたの獲る地において、長く命を保つことができるであらう。

第六章 —これはあなたがたの神、主があなたがたに教えよと命じられた命令と、定めと、おきてであって、あなたがたは渡って行って獲る地で、これを行わなければならない。^二これはあなたがたが子や孫と共に、あなたの生きながらえる日の間、つねにあなたの神、主を恐れて、わたしが命じるものもろの定めと、命令とを守らせるため、またあなたが長く命を保つことのできるためである。^三それゆえ、イスラエルよ、聞いて、それを守り行え。そうすれば、あなたはさいわいを得、あなたの先祖の神、主があなたに言われたように、乳と蜜の流れる国で、あなたの数は大いに増すであらう。

四 イスラエルよ聞け。われわれの神、主は唯一の主である。^五あなたは心をつくし、精神をつくし、力をつくして、あなたの神、主を愛さなければならない。^六きょう、わたしがあなたに命じるこれらの言葉をあなたの心

に留め、^七努めてこれをあなたの子らに教え、あなたが家に座している時も、道を歩く時も、寝る時も、起きる時も、これについて語らなければならない。^八またあなたはこれをあなたの手につけてしるしとし、あなたの目の間に置いて覚えとし、^九またあなたの家の入口の柱と、あなたの門とに書きしるさなければならない。

三〇 あなたの神、主は、あなたの先祖アブラハム、イサク、ヤコブに向かつて、あなたに与えると誓われた地に、あなたをはいらせられる時、あなたが建てたものでない大きな美しい町々を得させ、^二あなたが満たしたものでないもろの良の物を満たした家を得させ、あなたが掘ったものでない掘り井戸を得させ、あなたが植えたものでないぶどう畑とオリブの畑とを得させられるであらう。あなたは食べて飽きるであらう。^三その時、あなたはみずから慎み、エジプトの地、奴隸の家から導き出された主を忘れてはならない。^四あなたがたの神、主を恐れてこれに仕え、その名をさして誓わなければならない。^五あなたがたは他の神々すなわち周囲の民の神々に従ってはならない。^六あなたがたのうちにおられるあなたの神、主はねたむ神であるから、おそらく、あなたに向かつて怒りを発し、地のおもてからあなたを滅ぼし去られるであらう。

一六 あなたがたがマッサでしたように、あなたがたの神、主を試みてはならない。^{一七}あなたがたの神、主があなた

たがたに命じられた命令と、あかしと、定めとを、努めて守らなければならぬ。一八あなたは主が見て正しいとし、良いとされることを行わなければならない。そうすれば、あなたはさいわいを得、かつ主があなたの先祖に誓われた、あの良い地にはいつて、自分のものとすることができるであろう。一九また主が仰せられたように、あなたの敵を皆あなたの前から追い払われるであろう。

二〇後の日となつて、あなたの子があなたに問うて言うであろう、『われわれの神、主があなたがたに命じられたこのあかしと、定めと、おきてとは、なんのためですか』。二一その時あなたはその子に言わなければならない。『われわれはエジプトでパロの奴隷であつたが、主は強い手をもつて、われわれをエジプトから導き出された。二三主はわれわれの目の前で、大きな恐ろしいしるしと不思議とをエジプトと、パロとその全家とに示され、二四われわれをそこから導き出し、かつてわれわれの先祖に誓われた地にはいらせ、それをわれわれに賜わった。二五そして主はこのすべての定めを行へと、われわれに命じられた。これはわれわれの神、主を恐れて、われわれが、つねにさいわいであり、また今日のように、主がわれわれを守つて命を保たせるためである。二六もしわれわれが、命じられたとおりに、このすべての命令をわれわれの神、主の前に守つて行ふならば、それはわれわれの義となるであろう』。

第七章

「あなたの神、主が、あなたの行つて取る地にあなたを導き入れ、多くの国々の民、ヘテびと、

ギルガシびと、アモリびと、カナンびと、ベリジびと、ヒビびと、およびエブスびと、すなわちあなたよりも数多く、また力のある七つの民を、あなたの前から追いはらわれる時、二すなわちあなたの神、主が彼らをあなたに渡して、これを撃たせられる時は、あなたは彼らを全く滅ぼさなければならない。彼らとなんの契約をもしてはならない。彼らに何のあわれみをも示してはならない。三また彼らと婚姻をしてはならない。あなたの娘を彼のむすこに与えてはならない。かれの娘をあなたのむすこにめとつてはならない。四それは彼らがあなたのむすこを惑わしてわたしに従わせず、ほかの神々に仕えさせ、そのため主はあなたがたにむかつて怒りを発し、すみやかにあなたがたを滅ぼされることとなるからである。五むしろ、あなたがたはこのように彼らに行わなければならない。すなわち彼らの祭壇をこぼち、その石の柱を撃ち碎き、そのアシラ像を切り倒し、その刻んだ像を火で焼かなければならない。

六あなたはあなたの神、主の聖なる民である。あなたの神、主は地のおもてのすべての民のうちからあなたを選んで、自分の宝の民とされた。七主があなたがたを愛し、あなたがたを選ばれたのは、あなたがたがどの国民よりも数が多かつたからではない。あなたがたはよるずの民

のうち、もつとも数の少ないものであった。八ただ主があなたを愛し、またあなたがたの先祖に誓われた誓いを守ろうとして、主は強い手をもってあなたがたを導き出し、奴隷の家から、エジプトの王パロの手から、あなたがたを出されたのである。九それゆえあなたは知らなければならぬ。あなたの神、主は神にましまし、真実の神にましまして、彼を愛し、その命令を守る者には、契約を守り、恵みを施して千代に及び、一〇また彼を憎む者には、めいめいに報いて滅ぼされることを。主は自分を憎む者には猶予することなく、めいめいに報いられる。二それゆえ、きょうわたしがあなたに命じる命令と、定めと、おきてとを守って、これを行わなければならぬ。三あなたがたがこれらのおきてを聞いて守り行うならば、あなたの神、主はあなたの先祖たちに誓われた契約を守り、いつくしみを施されるであらう。三あなたがたを愛し、あなたを祝福し、あなたの数を増し、あなたに与え、と先祖たちに誓われた地で、あなたの子女を祝福し、あなたの地の産物、穀物、酒、油、また牛の子、羊の子を増されるであらう。四あなたは万民にまさって祝福されるであらう。あなたのうち、男も女も子のないものはない。またあなたの家畜にも子のないものはないであらう。五主はまたすべての病をあなたから取り去り、あなたの知っている、あのエジプトの悪疫にかからせず、ただあなたがたを憎むすべての者にそれを臨ませられるであらう。

一六あなたの神、主があなたに渡される国民を滅ぼしつくし、彼らを見てあわれんではならない。また彼らの神々に仕えてはならない。それがあなたのわなとなるからである。一七あなたは心のうちで『これらの国民はわたしよりも多いから、どうしてこれを追い払うことができようか』と言うのか。一八彼らを恐れてはならない。あなたの神、主がパロと、すべてのエジプトびとにされたことを、よく覚えなさい。一九すなわち、あなたが目で見た大いなる試みと、しるしと、不思議と、強い手と、伸ばした腕とを覚えなさい。あなたの神、主はこれらをもって、あなたを導き出されたのである。またそのように、あなたの神、主はあなたが恐れているすべての民にされるであらう。二〇あなたの神、主はまた、くまばちを彼らのうちに送って、なお残っている者と逃げ隠れている者を滅ぼしつくされるであらう。二一あなたは彼らを恐れてはならない。あなたの神、主である大いなる恐るべき神があなたのうちにおられるからである。二二あなたの神、主はこれらの国民を徐々にあなたの前から追い払われるであらう。あなたはすみやかに彼らを滅ぼしつくしてはならない。そうでなければ、野の獣が増してあなたを害するであらう。二三しかし、あなたの神、主は彼らをあなたに渡し、大いなる混乱におとし入れて、ついに滅ぼされるであらう。二四また彼らの王たちをあなたの手に渡されるであらう。

あろう。あなたは彼らの名を天の下から消し去るであろう。あなたに立ちむかうものはなく、あなたはついに彼らを滅ぼすにいたるであろう。二五あなたは彼らの神々の彫像を火に焼かなければならない。それに着せた銀または金をむさぼってはならない。これを取って自分のものにしてはならない。そうでなければ、あなたはこれによって、わなにかかるであろう。これはあなたの神が忌みきらわれるものだからである。二六あなたは忌むべきものを家に持ちこんで、それと同じようにあなた自身ものろわれたものとなつてはならない。あなたはそれを全く忌みきらわなければならぬ。それはのろわれたものだからである。

第八章 一 わたしが、きよう、命じるこのすべ

ての命令を、あなたがたは守って行わなければならない。そうすればあなたがたは生きることができ、かつふえ増し、主があなたがたの先祖に誓われた地にはいつて、それを自分のものとすることができるであろう。二 あなたは神、主がこの四十年の間、荒野であなたを導かれたそのすべての道を覚えなければならぬ。それはあなたを苦しめて、あなたを試み、あなたの心のうちを知り、あなたがその命令を守るか、どうかを知るためであった。三それで主はあなたを苦しめ、あなたを飢えさせ、あなたも知らず、あなたの先祖たちも知らなかったマナをもつて、あなたを養われた。人はパンだけでは生きず、

人は主の口から出るすべてのことばによって生きること。あなたに知らせるためであった。四 この四十年の間、あなたの着物はすり切れず、あなたの足は、はれなかった。五 あなたはまた人がその子を訓練するように、あなたの神、主もあなたを訓練されることを心にとめなければならぬ。六 あなたの神、主の命令を守り、その道に歩んで、彼を恐れなければならない。七 それはあなたの神、主があなたを良い地に導き入れられるからである。そこは谷にも山にもわき出る水の流れ、泉、および淵のある地、八 小麦、大麦、ぶどう、いちじく及びざくろのある地、油のオリブの木、および蜜のある地、九 あなたが食べる食物に欠けることなく、なんの乏しいこともない地である。その地の石は鉄であつて、その山からは銅を掘り取ることができる。一〇 あなたは食べて飽き、あなたの神、主がその良い地を賜わったことを感謝するであろう。

二 あなたは、きよう、わたしが命じる主の命令と、おきてと、定めとを守らず、あなたの神、主を忘れることのないように慎まなければならない。三 あなたは食べて飽き、麗しい家を建てて住み、四 また牛や羊がふえ、金銀が増し、持ち物がみな増し加わるとき、五 おそらく心にたかぶり、あなたの神、主を忘れるであろう。主はあなたをエジプトの地、奴隸の家から導き出し、六 あなたを導いて、あの大きな恐ろしい荒野、すなわち火のへびや、

さそりがいて、水のない、かわいた地を通り、あなたのために堅い岩から水を出し、^{一六}先祖たちも知らなかったマナを荒野であなたに食べさせられた。それはあなたを苦しめ、あなたを試みて、ついにはあなたをさいわいにするためであった。^{一七}あなたは心のうちに『自分の力と自分の手の働きで、わたしはこの富を得た』と言ってはならない。^{一八}あなたはあなたの神、主を覚えなければならぬ。主はあなたの先祖たちに誓われた契約を今日のように行うために、あなたに富を得る力を与えられるからである。^{一九}もしあなたの神、主を忘れて他の神々に従い、これに仕え、これを拜むならば、——わたしは、きょう、あなたがたに警告する。——あなたがたはきつと滅びるのである。^{二〇}主があなたがたの前から滅ぼし去られる国々の民のように、あなたがたも滅びるのである。あなたがたの神、主の声に従わないからである。

第九章 イスラエルよ、聞きなさい。あなたは、きょう、ヨルダンを渡って行って、あなたよりも大きく、かつ強い国々を取ろうとしている。その町々は大きく、石がきは天に達している。^二その民は、あなたの知っているアナクびとの子孫であって、大きく、また背が高く。あなたはまた『アナクの子孫の前に、だれが立つことができようか』と人の言うのを聞いた。^三それゆえ、あなたは、きょう、あなたの神、主は焼きつくす火であって、あなたの前に進まれることを知らなければならぬ。

主は彼らを滅ぼし、彼らをあなたの前に屈伏させられるであろう。主があなたに言われたように、彼らを追い払い、すみやかに滅ぼさなければならぬ。

^四あなたの神、主があなたの前から彼らを追い払われた後に、あなたは心のなかで『わたしが正しいから主はわたしをこの地に導き入れてこれを獲させられた』と言ってはならない。この国々の民が悪いから、主はこれをおあなたの前から追い払われるのである。^五あなたが行ってその地を獲るのは、あなたが正しいからではなく、またあなたの心がまっすぐだからでもない。この国々の民が悪いから、あなたの神、主は彼らをあなたの前から追い払われるのである。これは主があなたの先祖アブラハム、イサク、ヤコブに誓われた言葉を行われるためである。

^六それであなたは、あなたの神、主があなたにこの良い地を与えてこれを得させられるのは、あなたが正しいからではないことを知らなければならない。あなたは強情な民である。^七あなたは荒野であなたの神、主を怒らせたことを覚え、それを忘れてはならない。あなたがたはエジプトの地を出た日からこの所に来るまで、いつも主にそむいた。^八またホレブにおいてさえ、あなたがたが主を怒らせたので、主は怒ってあなたがたを滅ぼそうとされた。^九わたしが石の板すなわち主があなたがたと結ばれた契約の板を受けるために山に登った時、わたしは

四十日四十夜、山にいて、パンも食べず水も飲まなかった。^{一〇}主は神の指をもって書きしるした石の板二枚をわたしに授けられた。その上には、集会の日に主が山で火の中から、あなたがたに告げられた言葉が、ことごとく書いてあった。^{一一}すなわち四十日四十夜が終った時、主はわたしにその契約の板である石の板二枚を授け、^{一二}そして主はわたしに言われた、『おまえは立って、すみやかにこの所から降りなさい。おまえがエジプトから導き出した民は悪を行つたからである。彼らはわたしが命じた道を早くも離れて、鑄た像を自分たちのために造つた』。^{一三}主はまたわたしに言われた、『この民を見るのに、これは強情な民である。』^{一四}わたしを止めるな。わたしは彼らを滅ぼし、彼らの名を天の下から消し去り、おまえを彼らよりも強く、かつ大いなる国民としよう』。^{一五}そこでわたしは身をめぐらして山を降りたが、山は火で焼けていた。契約の板二枚はわたしの両手にあつた。^{一六}そしてわたしが見ると、あなたがたは、あなたがたの神、主にむかつて罪を犯し、自分たちのために鑄物の子牛を造つて、主が命じられた道を早くも離れたので、^{一七}わたしはその二枚の板をつかんで、両手から投げ出し、あなたがたの目の前でこれを砕いた。^{一八}そしてわたしは前のように四十日四十夜、主の前にひれ伏し、パンも食べず、水も飲まなかった。これはあなたがたが主の目の前に悪をおこない、罪を犯して主を怒らせたすべての罪によるの

である。^{一九}主は怒りを発し、憤りを起し、あなたがたを怒って滅ぼそうとされたので、わたしは恐れたが、その時もまた主はわたしの願いを聞かれた。^{二〇}主はまた、はなはだしくアロンを怒って、彼を滅ぼそうとされたが、わたしはその時もまたアロンのために祈つた。^{二一}わたしはあなたがたが造つて罪を得た子牛を取り、それを火で焼き、それを撃ち碎き、よくひいて細かいちりとし、そのちりを山から流れ下る谷川に投げ捨てた。

^{二二}あなたがたはタベラ、マッサおよびキプロテ・ハッタワにおいてもまた主を怒らせた。^{二三}また主はカデシ・パルネアから、あなたがたをつかわそうとされた時、『上つて行って、わたしが与える地を占領せよ』と言われた。^{二四}ところが、あなたがたはあなたがたの神、主の命令にそむき、彼を信ぜず、また彼の声に聞き従わなかった。^{二五}わたしがあなたがたを知つたその日からこのかた、あなたがたはいつも主にそむいた。

^{二六}そしてわたしは、さきにひれ伏したように、四十日四十夜、主の前にひれ伏した。主があなたがたを滅ぼすと言われたからである。^{二七}わたしは主に祈つて言った、『主なる神よ、あなたがたいなる力をもってあがない、強い手をもってエジプトから導き出されたあなたの民、あなたの嗣業を滅ぼさないでください。』^{二八}あなたのしもべアブラハム、イサク、ヤコブを覚えてください。この民の強情と悪と罪とに目をとめないでください。^{二九}あな

たがわれわれを導き出された国の人はおそろく、「主は、約束した地に彼らを導き入れることができず、また彼らを憎んだので、彼らを導き出して荒野で殺したのだ」と言うでしょう。二九しかし彼らは、あなたの民、あなたの嗣業であつて、あなたがたいなる力と伸ばした腕とをもつて導き出されたのです」。

第一〇章 「その時、主はわたしに言われた、『おまえは、前のような石の板二枚を切つて作り、山に登つて、わたしのもとにきなさい。また木の箱一つを作りなさい。二さきにおまえが砕いた二枚の板に書いてあつた言葉を、わたしはその板に書きしるそう。おまえはそれをその箱におさめなければならぬ』。三そこでわたしはアカシヤ材の箱一つを作り、また前のような石の板二枚を切つて作り、その二枚の板を手にとって山に登つた。四主はかつて、かの集会の日、山で火の中からあなたがたに告げられた十誡を書きしるされたように、その板に書きしるし、それを主はわたしに授けられた。五それでわたしは身をめぐらして山から降り、その板を、わたしが作つた箱におさめた。今なおその中にある。主がわたしに命じられたとおりである。

六(こうしてイスラエルの人々はベエロテ・ベネ・ヤカンを出立してモセラに着いた。アロンはその所で死んでそこに葬られ、その子エレアザルが彼に代つて祭司となつた。七またそこを出立してグデゴダに至り、グデゴダを

出立してヨテバタに着いた。この地には多くの水の流れがあつた。八その時、主はレビの部族を選んで、主の契約の箱をかつぎ、主の前に立つて仕え、また主の名をもつて祝福することをさせられた。この事は今日に及んでいゝる。九そのためレビは兄弟たちと一緒に分け前がなく、嗣業もない。あなたの神、主が彼に言われたとおり、主みずからが彼の嗣業であつた。)

一〇わたしは前の時のように四十日四十夜、山におつたが、主はその時にもわたしの願いを聞かれた。主はあなたを滅ぼすことを望まなかった。二そして主はわたしに『おまえは立ちあがり、民に先立つて進み行き、わたしが彼らに与えようと、その先祖に誓つた地に彼らをはいらせ、それを取らせよ』と言われた。

三イスラエルよ、今、あなたの神、主があなたに求められる事はなんであるか。ただこれだけである。すなわちあなたの神、主を恐れ、そのすべての道に歩んで、彼を愛し、心をつくし、精神をつくしてあなたの神、主に仕え、四また、わたしがきょうあなたに命じる主の命令と定めとを守つて、さいわいを得ることである。五見よ、天と、もろもろの天の天、および地と、地にあるものはみな、あなたの神、主のものである。六そうであるのに、主はただあなたの先祖たちを喜び愛し、その後の子孫であるあなたがたを万民のうちから選ばれた。今日見るとおりである。七それゆゑ、あなたがたは心に割礼を

おこない、もはや強情であつてはならない。二七あなたがたの神である主は、神の神、主の主、大いにして力ある恐るべき神にましまし、人をかたより見ず、また、まいたいを取らず、一八みなし子とやもめのために正しいさばきを行い、また寄留の他国人を愛して、食物と着物を与えられるからである。一九それゆえ、あなたがたは寄留の他国人を愛しなさい。あなたがたもエジプトの国で寄留の他国人であつた。二〇あなたの神、主を恐れ、彼に仕え、彼に従ひ、その名をさして誓わなければならぬ。二一彼はあなたのさんびすべきもの、またあなたの神であつて、あなたが目に見たこれらの大いなる恐るべき事を、あなたのために行われた。二三あなたの先祖たちは、わずか七十人でエジプトに下つたが、いま、あなたの神、主はあなたを天の星のように多くされた。

第一章 一それゆえ、あなたの神、主を愛し、常にそのさとしと、定めと、おきてと、戒めとを守らなければならぬ。二あなたがたは、きよう、次のことを知らなければならぬ。わたしは語るの、あなたがたの子供たちに対してではない。彼らはあなたがたの神、主の訓練と、主の大いなる事と、その強い手と、伸べた腕とを知らず、また見なかった。三また彼らは主がエジプトで、エジプト王パロとその全国に対して行われたしるしと、わざ、四また主がエジプトの軍勢とその馬と戦車とに行われた事、すなわち彼らがあなたをたのあとを

追つてきた時に、紅海の水を彼らの上にあふれさせ、彼らを滅ぼされて、今日に至つた事、五またあなたがたがこの所に來るまで、主が荒野で、あなたがたに行われた事、六およびルベンの子のエリアブの子、ダタンとアビラムとにされた事、すなわちイスラエルのすべての人々の中で、地が口を開き、彼らと、その家族と、天幕と、彼らに従うすべてのものを、のみつくした事などを彼らは知らず、また見なかった。七しかし、あなたがたは主が行われたこれらの大いなる事を、ことごとく目に見たのである。

八ゆえに、わたしが、きよう、あなたがたに命じる戒めを、ことごとく守らなければならぬ。そうすればあなたがたは強くなり、渡つて行つて取ろうとする地にはいつて、それを取ることができ、九かつ、主が先祖たちに誓つて彼らとその子孫とに与えようと言われた地、乳と蜜の流れる国において、長く生きることができである。一〇あなたがたが行つて取ろうとする地は、あなたがたがでてきたエジプトの地のようではない。あそこでは、青物畑でするように、あなたがたは種をまき、足でそれに水を注いだ。二しかし、あなたがたが渡つて行つて取る地は、山と谷の多い地で、天から降る雨で潤つてゐる。三その地は、あなたの神、主が顧みられる所で、年の始めから年の終りまで、あなたの神、主の目が常にその上にある。

三もし、きよう、あなたがたに命じるわたしの命令によく聞き従って、あなたがたの神、主を愛し、心をつくし、精神をつくして仕えるならば、二主はあなたがたの地に雨を、秋の雨、春の雨ともに、時にしたがつて降らせ、穀物と、ぶどう酒と、油を取り入れさせ、二また家畜のために野に草を生えさせられるであらう。あなたは飽きるほど食べることができであらう。一六あなたがたは心が迷い、離れ去って、他の神々に仕え、それを拝むことのないう、慎まなければならぬ。一七おそらく主はあなたがたにむかい怒りを発して、天を閉ざされるであらう。そのため雨は降らず、地は産物を出さず、あなたがたは主が賜わる良い地から、すみやかに滅びうせるであらう。

一八それゆえ、これらのわたしの言葉を心と魂におさめ、またそれを手につけて、しるしとし、目の間に置いて覚えとし、一九これら子供たちに教え、家に座している時も、道を歩く時も、寝る時も、起きる時も、それについて語り、二〇また家の入口の柱と、門にそれを書きしるさなければならぬ。三そうすれば、主が先祖たちに与えようと誓われた地に、あなたがたの住む日数およびあなたがたの子供たちの住む日数は、天が地をおおう日数のように多いであらう。三もしわたしがあなたがたに命じるこのすべての命令をよく守って行い、あなたがたの神、主を愛し、そのすべての道に歩み、主につき従うならば、

三主はこの国々の民を皆、あなたがたの前から追い払われ、あなたがたはあなたがたよりも大きく、かつ強い国を取るに至るであらう。二四あなたがたが足の裏で踏む所は皆、あなたがたのものとなり、あなたがたの領域は荒野からレバノンに及び、また大川エフラテから西の海に及ぶであらう。二五だれもあなたがたに立ち向かうことのできる者はないであらう。あなたがたの神、主は、かつて言われたように、あなたがたの踏み入る地の人々が、あなたがたを恐れおののくようにされるであらう。二六見よ、わたしは、きよう、あなたがたの前に祝福と、のろいとを置く。二七もし、きよう、わたしがあなたがたに命じるあなたがたの神、主の命令に聞き従うならば、祝福を受けるであらう。二八もしあなたがたの神、主の命令に聞き従わず、わたしが、きよう、あなたがたに命じる道を離れ、あなたがたの知らなかった他の神々に従うならば、のろいを受けるであらう。二九あなたの神、主が、あなたの行って占領する地にあなたがたを導き入れられる時、あなたはゲリジム山に祝福を置き、エバル山にのろいを置かなければならぬ。三〇これらの山はヨルダンの向こう側、アラバに住んでいるカナンびとの地で、日に入る方の道の西側にあり、ギルガルに向かいあって、モレのテレビンの木の近くにあるではないか。三二あなたがたはヨルダンを渡り、あなたがたの神、主が賜わる地にはいつて、それを占領しようとしている。あなたがたは

それを占領して、そこに住むであろう。三 それゆえ、わたしは、きょう、あなたがたに授ける定めと、おきてをことごとく守って行わなければならない。

第一二章 これはあなたの先祖たちの神、主が所有として賜わる地で、あなたがたが世に生きながらえている間、守り行わなければならない定めと、おきてである。二 あなたがたの追ひ払う国々の民が、その神々に仕えた所は、高い山にあるものも、丘にあるものも、青木の下にあるものも、ことごとくこわし、三 その祭壇をこぼち、柱を砕き、アシラ像を火で焼き、また刻んだ神々の像を切り倒して、その名をその所から消し去らなければならない。四 ただし、あなたがたの神、主にはそのようにしてはならない。五 あなたがたの神、主がその名を置いたために、あなたがたの全部族のうちから選ばれる場所、すなわち主のすまいを求め、そこに行き、六 あなたがたの燔祭と、犠牲と、十分の一と、七 ささげ物と、誓願の供え物と、自発の供え物および牛、羊のういごをそこに携えて行って、七そこであなたがたの神、主の前で食べ、あなたがたも、家族も皆、手を労して獲るすべての物を喜び樂しまなければならぬ。これはあなたの神、主の恵みによって獲るものだからである。八 そこでは、われわれがきょうここでしているように、めいめいで正しいと思うようにふるまってはならない。九 あなたがたはまだ、あなたがたの神、主から賜わる安息と嗣業の地

に、はいつていないのである。一〇 しかし、あなたがたがヨルダンを渡り、あなたがたの神、主が嗣業として賜わる地に住むようになり、さらに主があなたがたの周囲の敵をことごとく除いて、安息を与え、あなたがたが安らかに住むようになる時、二 あなたがたの神、主はその名を置いたために、一つの場所を選ばれるであろう。あなたがたはそこにわたしの命じる物をすべて携えて行かなければならない。すなわち、あなたがたの燔祭と、犠牲と、十分の一と、ささげ物およびあなたがたが主に誓ったすべての誓願の供え物とを携えて行かなければならない。三 そしてあなたがたのむすこ、娘、しもべ、はしためと共にあなたがたの神、主の前に喜び樂しまなければならぬ。また町の内におるレビびとともに、そうしなければならぬ。彼はあなたがたのうちに分け前がなく、嗣業を持たないからである。三 慎んで、すべてあなたがよいと思う場所で、みだりに燔祭をささげないようにしななければならない。四 ただあなたがたの部族の一つのうちに、主が選ばれるその場所で、燔祭をささげ、またわたしに命じるすべての事をしなければならぬ。五 しかし、あなたの神、主が賜わる恵みにしたがって、すべて心に好む獣を、どの町でも殺して、その肉を食べることが出来る。すなわち、かもしかや雄じかの肉と同様にそれを、汚れた人も、清い人も、食することが出来る。六 ただし、その血は食べてはならない。水のように

にそれを地に注がなければならぬ。二七あなたの穀物と、ぶどう酒と、油との十分の一および牛、羊のういご、ならびにあなたが立てる誓願の供え物と、自発の供え物およびささげ物は、町の内で食することはできない。一八あなたの神、主が選ばれる場所で、あなたの神、主の前でそれを食しなければならぬ。すなわちあなたのむすこ、娘、しもべ、はしため、および町の内におるレビびとと共にそれを食べ、手を勞して獲るすべての物を、あなたの神、主の前に喜び樂しまなければならぬ。一九慎んで、あなたが世に生きながらえている間、レビびとを捨てないようになければならぬ。

二〇あなたの神、主が約束されたように、あなたの領域を広くされるとき、あなたは肉を食べたいと願って、『わたしは肉を食べよう』と言うであろう。その時、あなたはほしだけ肉を食べることができぬ。三もしあなたの神、主がその名を置くために選ばれる場所が、遠く離れているならば、わたしが命じるように、主が賜わる牛、羊をほふり、門の内、ほしだけ食することができぬ。三かもしかや、雄じかを食するように、それを食することができぬ。すなわち汚れた人も、清い人も一樣にそれを食することができぬ。三三ただ堅く慎んで、その血を食べないようになければならぬ。血は命だからである。その命を肉と一緒に食してはならぬ。二四あなたはそれを食してはならない。水のようにそれを地に注がな

ければならぬ。二五あなたはそれを食してはならぬ。こうして、主が正しいと見られる事を行ふならば、あなたにも後の子孫にも、さいわいがあるであろう。二六あなたのささげる聖なる物と、誓願の物とは、主が選ばれる場所へ携えて行かなければならぬ。二七そして燔祭をささげる時は、肉と血とをあなたの神、主の祭壇の上にささげなければならぬ。犠牲をささげる時は、血をあなたの神、主の祭壇にそそぎかけ、肉はみずから食することができぬ。二八あなたはわたしが命じるこれらの事を、ことごとく聞いて守らなければならぬ。こうしてあなたの神、主が見て良いとし、正しいとされる事を行ふならば、あなたにも後の子孫にも、長くさいわいがあるであろう。

二九あなたの神、主が、あなたの行つて追ひ払おうとする国々の民を、あなたの前から断ち滅ぼされ、あなたがついにその国々を獲て、その地に住むようになる時、三〇あなたはみずから慎み、彼らがあなたの前から滅ぼされた後、彼らにならつて、わなにかかつてはならない。また彼らの神々を尋ね求めて、『これらの国々の民はどのようなにその神々に仕えたのか、わたしもそのようにしよう』と言つてはならない。三二あなたの神、主に対しては、そのようにしてはならない。彼らは主の憎まれるものもろの忌むべき事を、その神々にむかつて行い、むすこ、娘をさえ火に焼いて、神々にささげたからである。

三あなたがたはわたしが命じるこのすべての事を守つて行わなければならぬ。これにつけ加えてはならない。また減らしてはならない。

第一三章 一あなたがたのうちに預言者または夢

みる者が起つて、しるしや奇跡を示し、二あなたに告げ

るそのしるしや奇跡が実現して、あなたがこれまで知ら

なかった『ほかの神々に、われわれは従い仕えよう』と

言つても、三あなたはその預言者または夢みる者の言葉

に聞き従つてはならない。あなたがたの神、主はあなた

がたが心をつくし、精神をつくして、あなたがたの神、

主を愛するか、どうかを知ろうと、このようにあなたが

たを試みられるからである。四あなたがたの神、主に

従つて歩み、彼を恐れ、その戒めを守り、その言葉に

聞き従い、彼に仕え、彼につき従わなければならぬ。

五その預言者または夢みる者を殺さなければならぬ。

あなたがたをエジプトの国から導き出し、奴隷の家から

あがなわれたあなたがたの神、主にあなたがたをそむか

せ、あなたの神、主が歩めと命じられた道を離れさせよ

うとして語るゆえである。こうしてあなたがたのうちか

ら悪を除き去らなければならぬ。

六同じ母に生れたあなたの兄弟、またはあなたのむす

こ、娘、またはあなたのふところの妻、またはあなたと

身命を共にする友が、ひそかに誘つて『われわれは行つて他の神々に仕えよう』と言うかも知れない。これはあ

なたも先祖たちも知らなかった神々、七すなわち地のこ

のはてから、地ののはてまで、あるいは近く、あるいは

遠く、あなたの周囲にある民の神々である。しかし、

あなたはその人に従つてはならない。その人の言うこと

を聞いてはならない。その人をあわれんではならない。

その人を惜しんではならない。その人をかばってはなら

ない。八必ず彼を殺さなければならぬ。彼を殺すには、

あなたがまず彼に手を下し、その後、民がみな手を下さ

なければならぬ。九彼はエジプトの国、奴隷の家から

あなたを導き出されたあなたがたの神、主からあなたを離れ

させようとしたのであるから、あなたは石をもって彼を

撃ち殺さなければならぬ。二そうすればイスラエルは

皆聞いて恐れ、重ねてこのような悪い事を、あなたがた

のうちに行わないであらう。

三あなたの神、主があなたに与えて住まわせられる町

の一つで、三よこしまな人々があなたがたのうちに起つ

て、あなたがたの知らなかった『ほかの神々に、われわ

れは行つて仕えよう』と言つて、その町に住む人々を誘

惑したことを聞かなければ、四あなたはそれを尋ね、探り、

よく問いたださなければならぬ。そして、そのような

憎むべき事があなたがたのうちに行われた事が、真実で、

確かならば、五あなたは必ず、その町に住む者をつるぎ

の刃にかけて撃ち殺し、その町と、そのうちにおるすべ

ての者、およびその家畜をつるぎの刃にかけて、ことごと

とく滅ぼさなければならぬ。二六またそのすべてのぶんどり物は、町の広場の中央に集め、火をもってその町と、すべてのぶんどり物とを、ことごとく焼いて、あなたの神、主にささげなければならぬ。これはながく荒塚となつて、再び建て直されないのであらう。二七そののろわれた物は一つもあなたの手に留めおいてはならない。主が激しい怒りをやめ、あなたに慈悲を施して、あなたをわれみ、先祖たちに誓われたように、あなたの数を多くされるためである。二八あなたの神、主の言葉に聞き従い、わたしが、きよう、命じるすべての戒めを守り、あなたの神、主が正しいと見られる事を行ふならば、このようになるであらう。

第一章 第四章 一あなたがたはあなたがたの神、主の子供である。死んだ人のために自分の身に傷をつけてはならない。また額の髪をそつてはならない。二あなたはあなたの神、主の聖なる民だからである。主は地のおもてのすべての民のうちからあなたを選んで、自分の宝の民とされた。

三忌むべき物は、どんなものでも食べてはならない。四あなたがたの食ふことができる獣は次のとおりである。すなわち牛、羊、やぎ、五雄しか、かもしか、こじか、野やぎ、くじか、おおじか、野羊など、六獣のうち、すべて、ひずめの分れたもの、ひずめが二つに切れたもので、反芻するものは食ふことができる。七ただし、

反芻するものと、ひずめの分れたもののうち、次のものは食ふてはならない。すなわち、らくだ、野うさぎ、および岩だぬき、これらは反芻するけれども、ひずめが分れていないから汚れたものである。八また豚、これは、ひずめが分れてゐるけれども、反芻しないから、汚れたものである。その肉を食ふてはならない。またその死体に触れてはならない。

九水の中にいるすべての物のうち、次のものは食ふことができる。すなわち、すべて、ひれと、うるこのあるものは、食ふことができる。一〇すべて、ひれと、うるこのないものは、食ふてはならない。これは汚れたものである。

二すべて清い鳥は食ふことができる。三ただし、次のものは食ふてはならない。すなわち、はげわし、ひげはげわし、みさご、三黒とび、はやぶさ、とびの類。四各種のからすの類。五だちょう、夜たか、かもめ、たかの類。六ふくろう、みみずく、むらさきばん、七ペリカン、はげたか、う、八こうのとり、さぎの類。やつがしら、こうもり。九またすべて羽があつて這うものは汚れたものである。それを食ふてはならない。一〇すべて翼のある清いものは食ふことができる。

三すべて自然に死んだものは食ふてはならない。町の内における寄留の他国人に、それを与えて食べさせることができる。またそれを外国人に売つてもよい。あなたは

あなたの神、主の聖なる民だからである。
子やぎをその母の乳で煮てはならない。

三 あなたは毎年、畑に種をまいて獲るすべての産物の十分の一を必ず取り分けなければならぬ。三 そしてあなたの神、主の前、すなわち主がその名を置くために選ばれる場所で、穀物と、ぶどう酒と、油との十分の一と、牛、羊のういごを食べ、こうして常にあなたの神、主を恐れることを学ばなければならない。四 ただし、その道があまりに遠く、あなたの神、主がその名を置くために選ばれる場所が、非常に遠く離れていて、あなたの神、主があなたを恵まれるとき、それを携えて行くことができないならば、五 あなたはその物を金に換え、その金を包んで手に取り、あなたの神、主が選ばれる場所に行き、六 その金をすべてあなたの好む物に換えなければならぬ。すなわち牛、羊、ぶどう酒、濃い酒など、すべてあなたの欲する物に換え、その所でああなたの神、主の前でそれを食べ、家族と共に楽しまなければならぬ。七 町の内におけるレビびとを捨ててはならない。彼はあなたがたのうちに分がなく、嗣業を持たない者だからである。

二八 三年の終りごとに、その年の産物の十分の一を、ここごとく持ち出して、町の内にたくわえ、九 あなたがたのうちに分け前がなく、嗣業を持たないレビびと、および町の内における寄留の他国人と、孤児と、寡婦を呼んで、それを食べさせ、満足させなければならぬ。そうすれ

ば、あなたの神、主はあなたが手で行うすべての事にあなたを祝福されるであらう。

第一 五章 一 あなたは七年の終りごとに、ゆるしを行わなければならない。二 そのゆるしのしかたは次のとおりである。すべてその隣人に貸した貸主はそれをゆるさなければならない。その隣人または兄弟にそれを督促してはならない。主のゆるしが、ふれ示されたからである。三 外国人にはそれを督促することができが、あなたの兄弟に貸した物はゆるさなければならない。四 しかしあなたがたのうちに貧しい者はなくなるであらう。(あなたの神、主が嗣業として与えられる地で、あなたを祝福されるからである。五 ただし、あなたの神、主の言葉に聞き従って、わたしが、きょう、あなたに命じるこの戒めを、ここごとく守り行うとき、そのようになるであらう。六 あなたの神、主が約束されたようにあなたを祝福されるから、あなたは多くの国びとに貸すようになり、借りることはないであらう。またあなたは多くの国びとを治めるようになり、彼らがあなたを治めることはないであらう。

七 あなたの神、主が賜わる地で、もしあなたの兄弟で貧しい者がひとりでも、町の内におるならば、その貧しい兄弟にむかって、心をかたくなにしてはならない。また手を閉じてはならない。八 必ず彼に手を開いて、その必要とする物を貸し与え、乏しいのを補わなければならない

ない。九あなたは心に邪念を起し、『第七年のゆるしの年が近づいた』と言って、貧しい兄弟に対し、物を惜しんで、何も与えないことのないうに憤まなければならぬ。その人があなたを主に訴えるならば、あなたは罪を得るであろう。一〇あなたは心から彼に与えなければならぬ。彼に与える時は惜しんではならない。あなたの神、主はこの事のために、あなたをすべての事業と、手のすべての働きにおいて祝福されるからである。二貧しい者はいつまでも国のうちに絶えることがないから、わたしは命じて言う、『あなたは必ず国のうちにいるあなたの兄弟の乏しい者と、貧しい者とに、手を開かなければならない』。

三もしあなたの兄弟であるヘブルの男、またはヘブルの女が、あなたのところに売られてきて、六年仕えたならば、第七年には彼に自由を与えて去らせなければならぬ。三彼に自由を与えて去らせる時は、から手で去らせてはならない。四群れと、打ち場と、酒ぶねのうちから取って、惜しみなく彼に与えなければならぬ。すなわちあなたの神、主があなたを恵まれたように、彼に与えなければならぬ。五あなたはかつてエジプトの国で奴隷であったが、あなたの神、主があなたをあがない出した事を記憶しなければならぬ。このゆえにわたしは、きょう、この事を命じる。六しかしその人があなたと、あなたの家族を愛し、あなたと一緒にいることを望

み、『わたしはあなたを離れて去りたくありません』と言うならば、七あなたは、きりを取って彼の耳を戸に刺さなければならぬ。そうすれば、彼はいつまでもあなたの奴隷となるであろう。女奴隷にもそうしなければならぬ。八彼に自由を与えて去らせる時には、快く去らせなければならぬ。彼が六年間、賃銀を取る雇人の二倍あなたに仕えて働いたからである。あなたがそうするならば、あなたの神、主はあなたが行うすべての事にあなたを祝福されるであろう。

九牛、羊の産む雄のういごは皆あなたの神、主に聖別しなければならぬ。牛のういごを用いてなんの仕事をもしてはならない。また羊のういごの毛を切ってはならない。一〇あなたの神、主が選ばれる所で、主の前にあなたは家族と共に年ごとにそれを食べなければならぬ。三しかし、その獣がもし傷のあるもの、すなわち足なえまたは、めくらなど、すべて悪い傷のあるものである時は、あなたの神、主にそれを犠牲としてささげてはならない。三町の内でそれを食べなければならぬ。汚れた人も、清い人も、かもしかや、雄じかと同様にそれを食べる事ができる。三ただし、その血は食べてはならない。水のようにそれを地にそそがなければならぬ。

第一章 六章 一あなたはアビブの月を守って、あなたの神、主のために過越の祭を行わなければならぬ。アビブの月に、あなたの神、主が夜の間にあなたをエジ

プトから導き出されたからである。二主がその名を置くために選ばれる場所で、羊または牛をあなたの神、主に過越の犠牲としてほふらなければならぬ。三種を入れたパンをそれと共に食べてはならない。七日のあいだ種入れぬパンすなわち悩みのパンを、それと共に食べなければならぬ。あなたがエジプトの国から出るとき、急いで出たからである。こうして世に生きながらえる日の間、エジプトの国から出てきた日を常に覚えなければならぬ。四その七日の間は、国の内どこにもパン種があつてはならない。また初めの日の夕暮に、ほふるものの肉を翌朝まで残しておいてはならない。五あなたの神、主が賜わる町の内、過越の犠牲をほふつてはならない。六ただあなたの神、主がその名を置くために選ばれる場所で、夕暮の日の入るころ、あなたがエジプトから出た時刻に、過越の犠牲をほふらなければならぬ。七そしてあなたの神、主が選ばれる場所で、それを焼いて食べ、朝になつて天幕に帰らなければならぬ。八六日のあいだ種入れぬパンを食べ、七日目にあなたの神、主のために聖会を開かなければならない。なんの仕事もしてはならない。

九また七週間を数えなければならぬ。すなわち穀物に、かまを入れ始める時から七週間を数え始めなければならぬ。一〇そしてあなたの神、主のために七週の祭を行い、あなたの神、主が賜わる祝福にしたがつて、力に

応じ、自発の供え物をささげなければならぬ。二こうしてあなたはむすこ、娘、しもべ、はしためおよび町の内におるレビびと、ならびにあなたがたのうちにおる寄留の他国人と孤児と寡婦と共に、あなたの神、主がその名を置くために選ばれる場所で、あなたの神、主の前に喜び樂しまなければならぬ。三あなたはかつてエジプトで奴隷であつたことを覚え、これらの定めを守り行わなければならぬ。

四打ち場と、酒ぶねから取入れをしたとき、七日のあいだ飯庵の祭を行わなければならぬ。五その祭の時には、あなたはむすこ、娘、しもべ、はしためおよび町の内におるレビびと、寄留の他国人、孤児、寡婦と共に喜び樂しまなければならぬ。六主が選ばれる場所で七日の間、あなたの神、主のために祭を行わなければならぬ。七あなたの神、主はすべての産物と、手のすべてのわざとにおいて、あなたを祝福されるから、あなたは十分に喜び樂しまなければならぬ。

八あなたのうちの男子は皆あなたの神、主が選ばれる場所で、年に三度、すなわち種入れぬパンの祭と、七週の祭と、飯庵の祭に、主の前に出なければならぬ。九ただし、から手で主の前に出てはならない。一〇あなたの神、主が賜わる祝福にしたがい、おのおの力に応じて、ささげ物をしなければならぬ。

一八あなたの神、主が賜わるすべての町々の内に、部族

にしたがつて、さばきびとと、つかさびととを、立てなければならぬ。そして彼らは正しいさばきをもって民をさばかなければならぬ。一九あなたはさばきを曲げてはならない。人をかたより見てはならない。また賄賂を取ってはならない。賄賂は賢い者の目をくらまし、正しい者の事件を曲げるからである。二〇ただ公義のみ求めなければならぬ。そうすればあなたは生きながらえて、あなたの神、主が賜わる地を所有するにいたるであらう。

三 あなたが神、主のために築く祭壇のかたわらに、アシラの木像をも立ててはならない。三三またあなたが神、主が憎まれる柱を立ててはならない。

第一七章 一 すべて傷があり、欠けた所のある牛または羊はあなたの神、主にささげてはならない。そのようなものはあなたの神、主の忌みきらわれるものだからである。

二 あなたが神、主が賜わる町で、あなたがたのうちに、もし男子または女子があなたの神、主の前に悪事をおこなって、契約にそむき、三行つて他の神々に仕え、それを拝み、わたしの禁じる、日や月やその他の天の万象を拝むことがあり、四その事を知らせる者があつて、あなたがそれを聞くなれば、あなたはそれをよく調べなければならぬ。そしてその事が真実であり、そのような憎むべき事が確かにイスラエルのうちに行われていたならば、五あなたはその悪事をおこなった男子または女子を

町の門にひき出し、その男子または女子を石で撃ち殺さなければならぬ。六 夫たりの証人または三人の証人の証言によつて殺すべき者を殺さなければならぬ。ただひとりの証人の証言によつて殺してはならない。七 そのような者を殺すには、証人がまず手を下し、それから民が皆、手を下さなければならぬ。こうしてあなたのうちから悪を除き去らなければならぬ。

八 町の内には訴え事が起り、その事件がもし血を流す事、または権利を争う事、または人を撃つた事などであつて、あなたが、さばきかねるものである時は、立つてあなたの神、主が選ばれる場所にのぼり、九 レビびとである祭司と、その時の裁判人に行つて尋ねなければならぬ。彼らはあなたに判決の言葉を告げるであらう。一〇 あなたは、主が選ばれるその場所で、彼らが告げる言葉に従つておこなひ、すべて彼らが教えるように守り行わなければならない。二 すなわち彼らが教える律法と、彼らが告げる判決とに従つて行わなければならない。彼らが告げる言葉にそむいて、右にも左にもかたよつてはならない。三 もし人がほしいままにふるまい、あなたが神、主の前に立つて仕える祭司または裁判人に聞き従わなければ、その人を殺して、イスラエルのうちから悪を除かなければならない。四 そうすれば民は皆、聞いて恐れ、重ねてほしいままにふるまふことをしないであらう。

五 あなたが神、主が賜わる地に行き、それを獲てそこ

に住むようになる時、もしあなたが『わたしも周囲のすべての国びとのように、わたしの上に王を立てよう』と言うならば、『必ずあなたの神、主が選ばれた者を、あなたの上に立てて王としなければならぬ。同胞のひとり、あなたの上に立てて王としなければならぬ。』同胞でない外国人をあなたの上に立ててはならない。『王となる人は自分のために馬を多く獲ようとしてはならない。また馬を多く獲るために民をエジプトに帰らせてはならない。主はあなたがたにむかつて、『この後かさねてこの道に帰ってはならない』と仰せられたからである。』また妻を多く持つて心を、迷わしてはならない。また自分のために金銀を多くたくわえてはならない。

八 彼が国の王位につくようになったら、レビびとである祭司の保管する書物から、この律法の写しを一つの書物に書きしるさせ、『九世に生きながらえる日の間、常にそれを自分のもとに置いて読み、こうしてその神、主を恐れることを学び、この律法のすべての言葉と、これらの定めとを守って行わなければならぬ。』そうすれば彼の心が同胞を見くだして、高ぶることなく、また戒めを離れて、右にも左にも曲ることなく、その子孫と共にイスラエルにおいて、長くその位にとどまることができらるであらう。

第一 八 章 レビびとである祭司すなわちレビの全部族はイスラエルのうちに、分も嗣業も持たない。彼

らは主にささげられる火祭の物と、その他のささげ物とを食べなければならぬ。二 彼らはその兄弟のうちに嗣業を持たない。かつて彼らに約束されたとおり主が彼らの嗣業である。三 祭司が民から受ける分は次のとおりである。すなわち犠牲をささげる者は、牛でも、羊でも、その肩と、両方のほおと、胃とを祭司に与えなければならぬ。四 また穀物と、ぶどう酒と、油の初物および羊の毛の初物をも彼に与えなければならぬ。五 あなたの神、主がすべての部族のうちから彼を選び出して、彼とその子孫を長く主の名によって立てて仕えさせられるからである。

六 レビびとはイスラエルの全地のうち、どこにいる者でも、彼が宿っている町を出て、主が選ばれた場所に行くならば、七 彼は主の前に立っているすべての兄弟レビびとと同じように、その神、主の名によって仕えることができる。八 彼が食べる分は彼らと同じである。ただし彼はこのほかに父の遺産を売って獲た物を持つことができる。

九 あなたの神、主が賜わる地にはいったならば、その国の民の憎むべき事を習いおこなってはならない。一〇 あなたがたのうちに、自分のむすこ、娘を火に焼いてささげる者があつてはならない。また占いをする者、卜者、易者、魔法使、二 呪文を唱える者、口寄せ、かんなぎ、死人に問うことをする者があつてはならない。三 主はす

べてこれらの事をする者を憎まれるからである。そしてこれらの憎むべき事のゆえにあなたの神、主は彼らをお前の前から追い払われるのである。二二あなたの神、主の前にあなたは全き者でなければならぬ。二三あなたが追い払うかの国々の民は卜者、占いをする者に聞き従うからである。しかし、あなたには、あなたの神、主はそうする事を許されない。

二四あなたの神、主はあなたのうちから、あなたの同胞のうちから、わたしのようないひとりの預言者をあなたのために起されるであろう。あなたがたは彼に聞き従わなければならぬ。二五これはあなたがたが集会の日にホレブであなたの神、主に求めたことである。すなわちあなたは『わたしが死ぬことのないようにわたしの神、主の声を二度とわたしに聞かせないでください。またこの大いなる火を二度と見させないでください』と言った。二六主はわたしに言われた、『彼らが言ったことは正しい。二七わたしは彼らの同胞のうちから、おまえのようないひとりの預言者を彼らのために起して、わたしの言葉をその口に授けよう。彼はわたしが命じること、ことごとく彼らに告げるであろう。二八彼がわたしの名によって、わたしの言葉を語るのに、もしこれに聞き従わない者があるならば、わたしはそれを罰するであろう。二九ただし預言者が、わたしに語れと命じないことを、わたしの名によってほしのままに語り、あるいは他の神々の名によって語るなら

ば、その預言者は殺さなければならぬ。三〇あなたは心のうちに『われわれは、その言葉が主の言われたものでないと、どうして知り得ようか』と言うであろう。三〇もし預言者があって、主の名によって語っても、その言葉が成就せず、またその事が起らない時は、それは主が語られた言葉ではなく、その預言者がほしのままに語ったのである。その預言者を恐れるに及ばない。

第一章 二一あなたの神、主が国々の民を滅ぼしつくして、あなたの神、主がその地を賜わり、あなたがそれを獲て、その町々と、その家々に住むようになる時は、二二あなたの神、主が与えて獲させられる地のうちに、三つの町をあなたのために指定しなければならぬ。三三そしてそこに行く道を備え、またあなたの神、主があなたに継がせられる地の領域を三区に分け、すべて人を殺した者をそこにのがれさせなければならぬ。四一人を殺した者がそこにのがれて、命を全うすべき場合は次のとおりである。すなわち以前から憎むこともないのに、知らないでその隣人を殺した場合、五たとえば人が木を切るうとして、隣人と一緒に林に入り、手におのを取って、木を切り倒そうと撃ちおろすとき、その頭が柄から抜け、隣人にあたって、死なせたような場合がそれである。そういう人はこれらの町の一つにのがれて、命を全うすることができる。六そうしなければ、復讐する者が怒って、その殺した者を追いかけて、道が長い

ために、ついに追いついて殺すであろう。しかし、その人は以前から彼を憎んでいた者でないから、殺される理由はない。七それでわたしはあなたに命じて『三つの町をあなたのために指定しなければならぬ』と言ったのである。八あなたの神、主が先祖たちに誓われたように、あなたの領域を広め、先祖たちに与えると言われた地を、ことごとく賜わる時、——わたしが、きょう、命じるこのすべての戒めを守って、それをおこない、あなたの神、主を愛して、常にその道に歩む時——あなたはこれら三つの町のほかに、また三つの町をあなたのために増し加えなければならぬ。九これはあなたの神、主が与えて嗣業とされる地のうちで、罪のない者の血が流されないようにするためである。そうしなければ、その血を流したとがは、あなたに帰するであろう。

二しかし、もし人が隣人を憎んでそれをつけねらい、立ちかかってその人を撃ち殺し、そしてこれらの町の一つにのかれるならば、三その町の長老たちは人をつかわして彼をそこから引いてこさせ、復讐する者にわたして殺させなければならぬ。四彼をあわれんではならぬ。五罪のない者の血を流したとがを、イスラエルから除かなければならぬ。そうすればあなたにさいわいがあるであろう。

六あなたの神、主が与えて獲させられる地で、あなたが継ぐ嗣業において、先祖の定めたあなたの隣人の土地

の境を移してはならない。

二五どんな不正であれ、どんなとがであれ、すべて人の犯す罪は、ただひとりの証人によって定めてはならない。ふたりの証人の証言により、または三人の証人の証言によつて、その事を定めなければならぬ。二六もし悪意のある証人が起つて、人に対して悪い証言をすることがあれば、二七その相争うふたりの者は主の前に行って、その時の祭司と裁判人の前に立たなければならぬ。二八その時、裁判人は詳細にそれを調べなければならぬ。そしてその証人がもし偽りの証人であつて、兄弟にむかつて偽りの証言をした者であるならば、二九あなたがたは彼が兄弟にしようとしたことを彼に行い、こうしてあなたがたのうちから悪を除き去らなければならない。三〇そうすれば他の人たちは聞いて恐れ、その後ふたたびそのような悪をあなたがたのうちに行わないであろう。三一あわれんではならない。命には命、目には目、歯には歯、手には手、足には足をもって償わせなければならぬ。

第二〇章 一あなたが敵と戦うために出る時、馬と戦車と、あなたよりも大ぜいの軍隊を見ても、彼らを恐れてはならない。二あなたがエジプトの国から導きのぼられたあなたの神、主が共におられるからである。三あなたがたが戦いに臨むとき、祭司は進み出て民に告げて、四彼らに言わなければならない、『イスラエルよ聞け。あなたがたは、きょう、敵と戦おうとしている。気おくれ

してはならない。恐れてはならない。あわててはならない。彼らに驚いてはならない。あなたがたの神、主が共に行かれ、あなたがたのために敵と戦って、あなたがたを救われるからである。』五次につかされた民に告げて言わなければならぬ。『新しい家を建てて、まだそれをささげていない者があれば、その人を家に帰らせなければならぬ。そうしなければ、彼が戦いに死んだとき、ほかの人がそれをささげるようになるであろう。』六、どう畑を作って、まだその実を食べていない者があれば、その人を家に帰らせなければならぬ。そうしなければ、彼が戦いに死んだとき、ほかの人がそれを食べるようになるであろう。七、女と婚約して、まだその女をめぐっていない者があれば、その人を家に帰らせなければならぬ。そうしなければ、彼が戦いに死んだとき、ほかの人が彼女をめぐらなければならない。』八、つかされた民に告げて言わなければならぬ。『恐れて気おくれする者があるならば、その人を家に帰らせなければならぬ。そうしなければ、兄弟たちの心が彼の心のようにくじけるであろう。』九、つかされた民に告げて言わなければならぬ。『軍勢のかしらたちを立てて民を率いさせなければならぬ。』

一〇、一つの町へ進んで行って、それを攻めようとする時は、まず穏やかに降服することを勧めなければならぬ。二、もしその町が穏やかに降服しようと答えて、門を開く

ならば、そこにいるすべての民に、みつぎを納めさせ、あなたに仕えさせなければならぬ。三、もし穏やかに降服せず、戦おうとするならば、あなたはそれを攻めなければならぬ。四、そしてあなたの神、主がそれをあなたの手にわたされる時、つるぎをもってそのうちの男をみな撃ち殺さなければならぬ。五、ただし女、子供、家畜、およびすべて町のうちにあるもの、すなわちぶんどり物は皆、戦利品として取ることができる。また敵からぶんどった物はあなたの神、主が賜ったものだから、あなたはそれを用いることができる。六、遠く離れている町々、すなわちこれらの国々に属さない町々には、すべてこのようにしなければならぬ。七、ただし、あなたの神、主が嗣業として与えられるこれらの民の町々では、息のある者をひとりも生かしておいてはならない。八、すなわちヘテびと、アモリびと、カナンびと、ペリジびと、ヒビびと、エブスびとはみな滅ぼして、あなたの神、主が命じられたとおりにしなければならぬ。九、これは彼らがその神々を拜んでおこなったすべての憎むべき事を、あなたがたに教えて、それを行わせ、あなたがたの神、主に罪を犯させることのためである。

一〇、長く町を攻め囲んで、それを取ろうとする時でも、おのをふるって、その木を切り枯らしてはならない。それはあなたの食となるものだから、切り倒してはならない。あなたは田野の木までも、人のように攻めなければ

ばならないであろうか。二「ただし実を結ばない木とわかつている木は切り倒して、あなたと戦っている町にむかい、それをもってとりでを築き、陥落するまで、それを攻めることができる。」

第二章 「あなたの神、主が与えて獲させられる地で、殺されて野に倒れている人があって、だれが殺したのかわからない時は、三長老たちと、さばきびとたちが出てきて、その殺された者のある所から、周囲の町までの距離をはからなければならない。四そしてその殺された者のある所に最も近い町の長老たちは、まだ使わない、まだくびきを負わせて引いたことのない若い雌牛をとり、五その町の長老たちはその雌牛を、耕すことも、種まくこともしない、絶えず水の流れている谷へ引いていって、その谷で雌牛のくびを折らなければならない。六その時レビの子孫である祭司たちは、そこに進み出なければならぬ。彼らはあなたの神、主が自分に仕えさせ、また主の名によって祝福させるために選ばれた者で、すべての論争と、すべての暴行は彼らの言葉によつて解決されるからである。七そしてその殺された者のある所に最も近い町の長老たちは皆、彼らが谷でくびを折った雌牛の上で手を洗い、八証言して言わなければならない、『われわれの手はこの血を流さず、われわれの目もそれを見なかった。九主よ、あなたがあがなわれを民イスラエルをおゆるしく下さい。罪のない者の血を

流したとがを、あなたの民イスラエルのうちにとどめないでください。そして血を流したとがをおゆるしく下さい。』九このようにして、あなたは主が正しいと見られる事をおこない、罪のない者の血を流したとがを、あなたがたのうちから除き去らなければならない。

一〇あなたがたが出て敵と戦う際、あなたの神、主がそれをあなたの手にわたされ、あなたがそれを捕虜とした時、二もし捕虜のうちに美しい女のあるのを見て、それを好み、妻にめとろうとするならば、三その女をあなたの家に連れて帰らなければならない。女は髪をそり、つめを切り、四また捕虜の着物を脱ぎすて、あなたの家におり、自分の父母のために一か月のあいだ嘆かなければならない。そして後、あなたは彼女の所にはいって、その夫となり、彼女を妻とすることが出来る。五その後あなたがたがもし彼女を好まなくなつたならば、彼女を自由に去らせなければならない。決して金で売ってはならない。六あなたはすでに彼女をはずかしめたのだから、彼女を奴隷のようにあしらってはならない。七五人がふたりの妻をもち、そのひとりには愛する者、ひとりには氣にいらぬ者であつて、その愛する者と氣にいらぬ者のふたりが、ともに男の子を産み、もしその長子が、氣にいらぬ女の産んだ者である時は、八その子たちに自分の財産を継がせる時、氣にいらぬ女の産んだ長子をさしおいて、愛する女の産んだ子を長子とする

ことはできない。一七必ずその氣にいらぬ者の産んだ子が長子であることを認め、自分の財産を分ける時には、これに二倍の分け前を与えなければならぬ。これは自分の力の初めであつて、長子の特権を持っているからである。

一八もし、わがままで、手に負えない子があつて、父の言葉にも、母の言葉にも従わず、父母がこれを懲らしてもきかない時は、一九その父母はこれを捕えて、その町の門に行き、町の長老たちの前に出し、二〇町の長老たちに言わなければならぬ、『わたしたちのこの子はわがままで、手に負えません。わたしたちの言葉に従わず、身持ちが悪く、大酒飲みです』。二一そのとき、町の人は皆、彼を石で撃ち殺し、あなたがたのうちから悪を除き去らなければならぬ。そうすれば、イスラエルは皆聞いて恐れるであらう。

三もし人が死にあたる罪を犯して殺され、あなたがそれを木の上にかける時は、三三翌朝までその死体を木の上に留めておいてはならない。必ずそれをその日のうちに埋めなければならぬ。木にかけられた者は神にのろわれた者だからである。あなたの神、主が嗣業として賜わる地を汚してはならない。

第二章 一あなたの兄弟の牛、または羊の迷っているのを見て、それを見捨てておいてはならない。必ずそれを兄弟のところへ連れて帰らなければならぬ。

二もしその兄弟が近くの者でなく、知らない人であるならば、それを自分の家にひいてきて、あなたのところにおき、その兄弟が尋ねてきた時に、それを彼に返さなければならぬ。三あなたの兄弟のろばの場合も、そうしなければならぬ。着物の場合も、そうしなければならぬ。またすべてあなたの兄弟の失った物を見つけた場合も、そうしなければならぬ。それを見捨てておくことはできない。四あなたの兄弟のろばまたは牛が道に倒れているのを見て、見捨てておいてはならない。必ずそれを助け起さなければならぬ。

五女は男の着物を着てはならない。また男は女の着物を着てはならない。あなたの神、主はそのような事をする者を忌みきらわれるからである。

六もしあなたが道で、木の上、または地面に鳥の巢のあるのを見つけ、その中に雛または卵があつて、母鳥がその雛または卵を抱いているならば、母鳥を雛と一緒に取ってはならない。七必ず母鳥を去らせ、ただ雛だけを取らなければならぬ。そうすればあなたはさいわいを得、長く生きながらえることができるであらう。

八新しい家を建てる時は、屋根に欄干を設けなければならぬ。それは人が屋根から落ちて、血のとがをあなたの家に帰することのないようにするためである。

九ぶどう畑に二種の種を混ぜてまいてはならない。そうすればあなたがまいした種から産する物も、ぶどう畑

から出る物も、みな忌むべき物となるであらう。一〇牛と、ろばとを組み合わせ耕してはならない。二羊毛と亜麻糸を混ぜて織った着物を着てはならない。

三身にまとう上着の四すみに、ふさをつけなければならない。

三もし人が妻をめとり、妻のところにはいつて後、その女をきらい、「四わたしはこの女をめとって近づいた時、彼女に処女の証拠を見なかった」と言つて虚偽の非難をもって、その女に悪名を負わせるならば、五その女の父と母は、彼女の処女の証拠を取つて、門におる町の長老たちに差し出し、六そして彼女の父は長老たちに言わなければならぬ。『わたしはこの人に娘を与えて妻にさせましたが、この人は娘をきらい、七虚偽の非難をもって、「わたしはあなたの娘に処女の証拠を見なかった」と言います。しかし、これがわたしの娘の処女の証拠です』と言つて、その父母はかの布を町の長老たちの前にひろげなければならぬ。八その時、町の長老たちは、その人を捕えて撃ち懲らし、九また銀百シケルの罰金を課し、それを女の父に与えなければならぬ。彼はイスラエルの処女に悪名を負わせたからである。彼はその女を妻とし、一生その女を出すことはできない。三〇しかし、この非難が真実であつて、その女に処女の証拠が見られない時は、三二その女を父の家の入口にひき出し、町の人々は彼女を石で撃ち殺さなければならぬ。彼女

は父の家で、みだらな事をおこない、イスラエルのうちに愚かな事をしたからである。あなたはこうしてあなたがたのうちから悪を除き去らなければならぬ。

三もし夫のある女と寝ている男を見つけたならば、その女と寝た男およびその女と一緒に殺し、こうしてイスラエルのうちから悪を除き去らなければならぬ。

三三もし処女である女が、人と婚約した後、他の男が町の中でその女に会い、これを犯したならば、四あなたがたはそのふたりを町の門にひき出して、石で撃ち殺さなければならぬ。これはその女が町の内におりながら叫ばなかったからであり、またその男は隣人の妻をはずかしめたからである。あなたはこうしてあなたがたのうちから悪を除き去らなければならぬ。

三五しかし、男が、人と婚約した女に野で会い、その女を捕えてこれを犯したならば、その男だけを殺さなければならぬ。三六その女には何もしてはならない。女には死にあたる罪がない。人がその隣人に立ちむかつて、それを殺したと同じ事件だからである。三七これは男が野で女に会ったので、人と婚約したその女が叫んだけれども、救う者がなかったのである。

三八まだ人と婚約しない処女である女に、男が会い、これを捕えて犯し、ふたりが見つけられたならば、三九女を犯した男は女の父に銀五十シケルを与えて、女を自分の妻としなければならぬ。彼はその女をはずかしめたゆ

えに、一生その女を出すことはできない。

三〇だれも父の妻をめとってはならない。父の妻と寝てはならない。

第二三章 すべて去勢した男子は主の会衆に加

わってはならない。

二私生児は主の会衆に加わってはならない。その子孫は十代までも主の会衆に加わってはならない。

三アンモンびととモアブびとは主の会衆に加わってはならない。彼らの子孫は十代までも、いつまでも主の会衆に加わってはならない。四これはあなたがたがエジプトから出てきた時に、彼らがパンと水を携えてあなたがたを道に迎えず、アラム・ナハライムのペトルからベオルの子バラムを雇って、あなたをのろわせようとしたからである。五しかし、あなたの神、主はバラムの言うことを聞こうともせず、あなたの神、主はあなたのために、そののろいを変えて、祝福とされた。あなたの神、主があなたを愛されたからである。六あなたは一生いつまでも彼らのために平安をも、幸福をも求めてはならない。

七あなたはエドムびとを憎んではならない。彼はあなたの兄弟だからである。またエジプトびとを憎んではならない。あなたはかつてその国の寄留者であったからである。八そして彼らが産んだ子どもは三代目には、主の会衆に加わることができる。

九敵を攻めるために出て陣営におる時は、すべての汚

れた物を避けなければならない。

一〇あなたがたのうちに、夜の思いがけない事によって身の汚れた人があるならば、陣営の外に出なければならない。陣営の内に、はいつてはならない。二しかし、夕方になって、水で身を洗い、日が没して後、陣営の内に、はいることができる。

三あなたはまた陣営の外に一つの所を設けておいて、用をたす時、そこに出て行かなければならない。四また武器と共に、くわを備え、外に出て、かがむ時、それをもって土を掘り、向きをかえて、出た物をおおわなければならない。五あなたの神、主があなたを救い、敵をあなたにわたそうと、陣営の中を歩まれるからである。ゆえに陣営は聖なる所として保たなければならない。主があなたのうちにきたない物のあるのを見て、離れ去れることのないためである。

五主人を避けて、あなたのところに逃げてきた奴隷を、その主人にわたしてはならない。一六その者をあなたがたのうちに、あなたと共におらせ、町の一つのうち、彼が好んで選ぶ場所に住ませなければならない。彼を虐待してはならない。

モイセラエルの女子は神殿娼婦となつてはならない。またイスラエルの男子は神殿男娼となつてはならない。一八娼婦の得た価または男娼の価をあなたの神、主の家に携えて行って、どんな誓願にも用いてはならない。これ

はともにあなたの神、主の憎まれるものだからである。

一九兄弟に利息を取って貸してはならない。金銭の利息、食物の利息などすべて貸して利息のつく物の利息を取ってはならない。二〇外国人には利息を取って貸してもよい。ただ兄弟には利息を取って貸してはならない。これはあなたが、はいつて取る地で、あなたの神、主がすべてあなたのする事に祝福を与えられるためである。

二一あなたの神、主に誓願をかける時、それを果すことを怠つてはならない。あなたの神、主は必ずそれをあなたに求められるからである。それを怠るときは罪を得るのである。二三しかし、あなたが誓願をかけないならば、罪を得ることはない。二四あなたが口で言った事は守って行わなければならない。あなたが口で約束した事は、あなたの神、主にあなたが自発的に誓願したのだからである。

二五あなたが隣人のぶどう畑にはいる時、そのぶどうを心にまかせて飽きるほど食べてもよい。しかし、あなたの器の中に取り入れてはならない。二六あなたが隣人の麦畑にはいる時、手でその穂を摘んで食べてもよい。しかし、あなたの隣人の麦畑にかまを入れてはならない。

第二四章 一人が妻をめとつて、結婚したのちに、その女に恥ずべきことのあるのを見て、好まなくなつたならば、離縁状を書いて彼女の手に渡し、家を去らせなければならぬ。二女がその家を出てのち、行って、ほ

かの人にとつぎ、三後の夫も彼女をきらつて、離縁状を書き、その手に渡して家を去らせるか、または妻にめとつた後の夫が死んだときは、四彼女はすでに身を汚したのちであるから、彼女を去らせた先の夫は、ふたたび彼女を妻にめとめることはできない。これは主の前に憎むべき事だからである。あなたの神、主が嗣業としてあなたに与えられる地に罪を負わせてはならない。

五人が新たに妻をめとつた時は、戦争に出してはならない。また何の務もこれに負わせてはならない。その人は一年の間、束縛なく家にいて、そのめとつた妻を慰めなければならぬ。

六ひきうす、またはその上石を質にとつてはならない。これは命をつなぐものを質にとることだからである。

七イスラエルの人々のうちの同胞のひとりをかどわかつて、これを奴隷のようにあしらい、またはこれを売る者を見つけたならば、そのかどわかした者を殺して、あなたがたのうちから悪を除き去らなければならない。

八らい病の起つた時は氣をつけて、すべてレビびとたる祭司が教えることを、よく守って行わなければならない。すなわちわたしに彼らに命じたように、あなたがたはそれを守って行わなければならない。九あなたがたがエジプトから出てきたとき、道でああなたの神、主がミリアムにされたことを記憶しなければならない。一〇あなたが隣人に物を貸すときは、自分でその家に

はいって、質物を取ってはならない。二あなたは外に立っていて、借りた人が質物を外にいたるあなたのところへ持ち出さなければならぬ。三もしその人が貧しい人である時は、あなたはその質物を留め置いて寝てはならない。四その質物は日の入るまでに、必ず返さなければならぬ。そうすれば彼は自分の上着をかけて寝ることのできて、あなたを祝福するであろう。それはあなたの神、主の前にあなたの義となるであろう。

一四貧しく乏しい雇人は、同胞であれ、またはあなたの国で、町のうちに寄留している他国人であれ、それを虐待してはならない。一五賃銀はその日のうちに払い、それを日の入るまで延ばしてはならない。彼は貧しい者で、その心をこれにかけているからである。そうしなければ彼はあなたを主に訴えて、あなたは罪を得るであろう。一六父は子のゆえに殺さるべきではない。子は父のゆえに殺さるべきではない。おのおの自分の罪のゆえに殺さるべきである。

一七寄留の他国人または孤児のさばきを曲げてはならない。一八寡婦の着物を質に取ってはならない。一九あなたはかつてエジプトで奴隷であったが、あなたの神、主がそこからあなたを救い出されたことを記憶しなければならぬ。それでわたしはあなたにこの事をせよと命じるのである。

一九あなたが畑で穀物を刈る時、もしその一束を畑にお

き忘れたならば、それを取りに引き返してはならない。それは寄留の他国人と孤児と寡婦に取らせなければならぬ。そうすればあなたの神、主はすべてあなたがする事において、あなたを祝福されるであろう。二〇あなたがオリブの実をうち落すときは、ふたたびその枝を捜してはならない。それを寄留の他国人と孤児と寡婦に取らせなければならぬ。三またぶどう畑のぶどうを摘み取るときは、その残ったものを、ふたたび捜してはならない。それを寄留の他国人と孤児と寡婦に取らせなければならぬ。三あなたはかつてエジプトの国で奴隷であったことを記憶しなければならぬ。それでわたしはあなたにこの事をせよと命じるのである。

第二章 一人と人との間に争い事があって、さ

ばきを求めてきたならば、さばきびとはこれをさばいて、正しい者を正しいとし、悪い者を悪いとしなければならぬ。二その悪い者が、むち打つべき者であるならば、さばきびとは彼を伏させ、自分の前で、その罪にしたがい、数えて彼をむち打たせなければならぬ。三彼をむち打つには四十を越えてはならない。もしそれを越えて、それよりも多くむちを打つときは、あなたの兄弟はあなたの目の前で、はざかしめられることになるであろう。

四脱穀をする牛にくつこを掛けてはならない。

五兄弟が一緒に住んでいて、そのうちのひとりが死んで子のない時は、その死んだ者の妻は出て、他人にとつ

いではならない。その夫の兄弟が彼女の所にはいり、めとって妻とし、夫の兄弟としての道を彼女につくさなければならぬ。六そしてその女が初めに産む男の子に死んだ兄弟の名を継がせ、その名をイスラエルのうちに絶やさないようにしなければならぬ。七しかしその人が兄弟の妻をめとるのを好まないならば、その兄弟の妻は町の門へ行って、長老たちに言わなければならぬ、『わたしの夫の兄弟はその兄弟の名をイスラエルのうちに残すのを拒んで、夫の兄弟としての道をつくすことを好みません』。八そのとき町の長老たちは彼を呼び寄せ、さとさなければならぬ。もし彼が固執して、『わたしは彼女をめとることを好みません』と言うならば、九その兄弟の妻は長老たちの目の前で、彼のそばに行き、その足のくつを脱がせ、その顔につばきして、答えて言わなければならぬ。『兄弟の家をたてない者には、このようにすべきです』。一〇そして彼の家の名は、くつを脱がされた者の家と、イスラエルのうちで呼ばれるであろう。二ふたりの人が互に争うときに、そのひとりの人の妻が、打つ者の手から夫を救おうとして近づき、手を伸べて、その人の隠し所をつかまえるならば、三その女の手を切り落さなければならぬ。あわれみをかけてはならない。

二三 あなたの袋に大小二種の重り石を入れておいてはならない。二四 あなたの家に大小二種のますをおいてはなら

ない。二五 不足のない正しい重り石を持ち、また不足のない正しいますを持たなければならぬ。そうすればあなたの神、主が賜わる地で、あなたは長く命を保つことができるであろう。二六 すべてこのような不正をする者を、あなたの神、主が憎まれるからである。

二七 あなたがエジプトから出てきた時、道でアマレクびとがあなたにしたことを記憶しなければならぬ。二八 すなわち彼らは道であなたに出会い、あなたがうみ疲れている時、うしろについてきていたすべての弱っている者を攻め撃った。このように彼らは神を恐れなかった。二九 それで、あなたの神、主が嗣業として賜わる地で、あなたの神、主があなたの周囲のすべての敵を征服して、あなたに安息を与えられる時、あなたはアマレクの名を天の下から消し去らなければならぬ。この事を忘れてはならない。

第二十六章

一 あなたの神、主が嗣業として賜わる国にはいつて、それを所有し、そこに住む時は、二あなたの神、主が賜わる国にできる、地のすべての実の初物を取ってかごに入れ、あなたの神、主がその名を置いために選ばれた所へ携えて行かなければならぬ。三そしてその時の祭司の所へ行って彼に言わなければならぬ。『きょう、あなたの神、主にわたしは申します。主がわれわれに与えると先祖たちに誓われた国に、わたしはいることができました』。四 そのとき祭司はあなたの手

からそのかごを受け取ってあなたの神、主の祭壇の前に置かなければならない。

五そして、あなたはあなたの神、主の前に述べて言わなければならぬ、『わたしの先祖は、さすらいの一アラムびとでありましたが、わずかの人を連れてエジプトへ下って行って、その所に寄留し、ついにそこで大きく、強い、人数の多い国民になりました。六ところがエジプトびとはわれわれをしえたげ、また悩まして、つらい労役を負わせましたが、七われわれが先祖たちの神、主に叫んだので、主はわれわれの声を聞き、われわれの悩みと、骨折りと、しえたげとを顧み、八主は強い手と、伸べた腕と、大いなる恐るべき事と、しるしと、不思議とをもつて、われわれをエジプトから導き出し、九われわれをこの所へ連れてきて、乳と蜜の流れるこの地をわれわれに賜りました。一〇主よ、ごらんください。あなたがわたしに賜った地の実の初物を、いま携えてきました。』そしてあなたはそれをあなたの神、主の前に置いて、あなたの神、主の前に礼拝し、二あなたの神、主があなたとあなたの家とに賜ったすべての良い物をもつて、レビびとおよびあなたのなかにいる寄留の他国人と共に喜び樂しまなければならぬ。

三第三年すなわち十分の一を納める年に、あなたがすべての産物の十分の一を納め終って、それをレビびとと寄留の他国人と孤児と寡婦とに与え、町のうちで彼らに

飽きるほど食べさせた時、二三あなたの神、主の前で言わなければならぬ、『わたしはその聖なる物を家から取り出し、またレビびとと寄留の他国人と孤児と寡婦とにそれを与え、すべてあなたが命じられた命令のとおりにいたしました。わたしはあなたの命令にそむかず、またそれを忘れませんでした。一四わたしはその聖なる物を喪のうちで食べたことがなく、また汚れた身でそれを取り出したことがなく、また死人にそれを供えたことがありませんでした。わたしはわたしの神、主の声に聞き従い、すべてあなたがわたしに命じられたとおりにいたしました。一五あなたの聖なるすみかである天からみそなわして、あなたの民イスラエルと、あなたがわれわれに与えられた地とを祝福してください。これはあなたがわれわれの先祖に誓われた乳と蜜の流れる地です。』

一六きよう、あなたの神、主はこれらの定めと、おきてとを行うことをあなたに命じられる。それゆえ、あなたは心をつくし、精神をつくしてそれを守り行わなければならぬ。一七きよう、あなたは主をあなたの神とし、かつその道に歩み、定めと、戒めと、おきてとを守り、その声に聞き従うことを明言した。一八そして、主は先に約束されたように、きよう、あなたを自分の宝の民とされること、また、あなたがそのすべての命令を守るべきことを明言された。一九主は誉と良き名と栄えとをあなたに与えて、主の造られたすべての国民にまさるものとされる

であろう。あなたは主が言われたように、あなたの神、主の聖なる民となるであろう」。

第二章 「モーセとイスラエルの長老たちとは民に命じて言った、「わたしが、きょう、あなたがたに命じるすべての戒めを守りなさい。二あなたがたがヨルダンを渡ってあなたの神、主が賜わる国にはいる時、あなたは大きな石数個を立てて、それにしっくいを塗り、三そしてあなたがたが渡って、あなたの先祖たちの神、主が約束されたようにあなたの神、主が賜わる地、すなわち乳と蜜の流れる地にはいる時、この律法のすべての言葉をその上に書きしるさなければならぬ。四すなわち、あなたがたが、ヨルダンを渡ったならば、わたしが、きょう、あなたがたに命じるそれらの石をエバル山に立て、それにしっくいを塗らなければならぬ。五またそこにああなたの神、主のために、祭壇、すなわち石の祭壇を築かなければならぬ。鉄の器を石に当てず、六自然のままの石でああなたの神、主のために祭壇を築き、その上であなたの神、主に燔祭をささげなければならぬ。七また酬恩祭の犠牲をささげて、その所で食べ、あなたの神、主の前で喜びしななければならぬ。八あなたは、この律法のすべての言葉をその石の上に明らかに書きしるさなければならぬ」。

九またモーセとレビびとたる祭司たちとは、イスラエルのすべての人々に言った、「イスラエルよ、静かに聞き

なさい。あなたは、きょう、あなたの神、主の民となつた。一〇それゆえ、あなたの神、主の声に聞き従い、わたしが、きょう、命じる戒めと定めとを行わなければならぬ」。

二その日またモーセは民に命じて言った、三「あなたがたがヨルダンを渡った時、次の人たちはゲリジム山に立って民を祝福しなければならぬ。すなわちシメオン、レビ、ユダ、イッサカル、ヨセフおよびベニヤミン。四また次の人たちはエバル山に立つてのろわなければならぬ。すなわちルベン、ガド、アセル、ゼブルン、ダンおよびナフタリ。五そしてレビびとは大声でイスラエルのすべての人々に告げて言わなければならぬ。

六「工人の手で作である刻んだ像、または鑄た像は、主が憎まれるものであるから、それを造つて、ひそかに安置する者はのろわれる」。民は、みな答えてアアメンと言わなければならぬ。

七「父や母を軽んずる者はのろわれる」。民はみなアアメンと言わなければならぬ。

八「隣人との土地の境を移す者はのろわれる」。民はみなアアメンと言わなければならぬ。

九「盲人を道に迷わす者はのろわれる」。民はみなアアメンと言わなければならぬ。

一〇「寄留の他国人や孤児、寡婦のさばきを曲げる者はのろわれる」。民はみなアアメンと言わなければならぬ。

三〇『父の妻を犯す者は、父を恥ずかしめるのであるから、のろわれる。』民はみなアアメンと言わなければならぬ。

三一『すべて獣を犯す者はのろわれる。』民はみなアアメンと言わなければならぬ。

三二『父の娘、または母の娘である自分の姉妹を犯す者はのろわれる。』民はみなアアメンと言わなければならぬ。

三三『妻の母を犯す者はのろわれる。』民はみなアアメンと言わなければならぬ。

三四『ひそかに隣人を撃ち殺す者はのろわれる。』民はみなアアメンと言わなければならぬ。

三五『まいないを取って罪なき者を殺す者はのろわれる。』民はみなアアメンと言わなければならぬ。

三六『この律法の言葉を守り行わない者はのろわれる。』民はみなアアメンと言わなければならぬ。

第二章 一もしあなたが、あなたの神、主の聲によく聞き従い、わたしが、きょう、命じるすべての戒めを守り行うならば、あなたの神、主はあなたを地のものもろの国民の上に立たせられるであらう。二もし、あなたがあなたの神、主の声に聞き従うならば、このものもろの祝福はあなたに臨み、あなたに及ぶであらう。三あなたは町の内でも祝福され、畑でも祝福されるであらう。四またあなたの身から生れるもの、地に産する物、

家畜の産むもの、すなわち牛の子、羊の子は祝福されるであらう。五またあなたのかごと、こねばちは祝福されるであらう。六あなたは、はいるにも祝福され、出るにも祝福されるであらう。

七敵が起つてあなたを攻める時は、主はあなたにそれを撃ち敗らせられるであらう。彼らは一つの道から攻めて来るが、あなたの前で七つの道から逃げ去るであらう。八主は命じて祝福をあなたの倉と、あなたの手のすべてのわざにくだし、あなたの神、主が賜わる地であなたを祝福されるであらう。九もし、あなたの神、主の戒めを守り、その道を歩むならば、主は誓われたようにあなたを立てて、その聖なる民とされるであらう。一〇そうすれば地のすべての民は皆あなたが主の名をもって唱えられるのを見てあなたを恐れるであらう。一一主があなたに与えると先祖に誓われた地で、主は良い物、すなわちあなたを豊かにされるであらう。一二主はその宝の蔵である天をあなたのために開いて、雨を季節にしたがつてあなたの地に降らせ、あなたの手のすべてのわざを祝福されるであらう。あなたは多くの国民に貸すようになり、借りることはないであらう。一三主はあなたをかしらとならせ、尾とはならせられないであらう。あなたはただ栄えて衰えることはないであらう。きょう、わたしが命じるあなたの神、主の戒めに聞き従って、これを守り行な

らば、あなたは必ずこのようになるであろう。一四きよう、わたしが命じるこのすべての言葉を離れて右または左に曲り、他の神々に従い、それに仕えてはならない。

一五しかし、あなたの神、主の声に聞き従わず、きよう、わたしが命じるすべての戒めと定めとを守り行わないならば、このもろもろののろいがあなたに臨み、あなたに及ぶであろう。一六あなたは町のうちでものろわれ、畑でものろわれ、一七あなたのかごも、こねばちものろわれ、一八あなたの身から生れるもの、地に産する物、牛の子、羊の子ものろわれるであろう。一九あなたは、はいるにものろわれ、出るにものろわれるであろう。

二〇主はあなたが手をくだすすべての働きにのろいと、混乱と、懲らしめとを送られ、あなたはついに滅び、すみやかにうせ果てるであろう。これはあなたが悪をおこなってわたしを捨てたからである。二一主は疫病をあなたの身につかせ、あなたが行って取る地から、ついにあなたを断ち滅ぼされるであろう。二二主はまた肺病と熱病と炎症と間けつ熱と、かんばつと、立ち枯れと、腐り穂とをもつてあなたを撃たれるであろう。これらのものはあなたを追ひ、ついにあなたを滅ぼすであろう。二三あなたの頭の上の天は青銅となり、あなたの下の地は鉄となるであろう。二四主はあなたの地の雨を、ちりと、ほこりに変らせ、それが天からあなたの上にくだつて、ついにあなたを滅ぼすであろう。

二五主はあなたを敵の前で敗れさせられるであろう。あなたは一つの道から彼らを攻めて行くが、彼らの前で七つの道から逃げ去るであろう。そしてあなたは地のもろもろの国に恐るべき見せしめとなるであろう。二六またあなたの死体は空のもろもろの鳥と、地の獣とのえじきとなり、しかもそれを追ひ払う者はないであろう。二七主はエジプトの腫物と潰瘍と壞血病とひぜんとをもつてあなたを撃たれ、あなたはいやされることはないであろう。二八また主はあなたが撃つて気を狂わせ、目を見えなくし、心を混乱させられるであろう。二九あなたは盲人が暗やみに手探りするように、真昼にも手探りするであろう。あなたは行く道で栄えることがなく、ただ常にしえたげられ、かすめられるだけで、あなたを救う者はないであろう。三〇あなたは妻をめとつても、ほかの人が彼女と寝るであろう。家を建てても、その中に住まないであろう。ぶどう畑を作つても、その実を摘み取ることがないであろう。三二あなたの牛が目の前でほふられても、あなたはそれを食べることができず、あなたのろばが目の前で奪われても、返されないであろう。あなたの羊が敵のものになつても、それを救つてあなたに返す者はないであろう。三三あなたはあなたのむすこや娘は他国民にわたされる。あなたの目はそれを見、終日、彼らを慕つて衰えるが、あなたは手を施すすべもないであろう。三三あなたは地の産物およびあなたの労して獲た物はみなあなたの知らない民

が食^たべるであろう。あなたは、ただ常^{つね}にしえたげられ、苦しめられるのみであろう。三三 こうしてあなたは目に見^みる事柄^{ことがら}によって、気が狂^{くる}うにいたるであろう。三五 主はあなたのひざと、はぎとに悪い、いやし得^えない腫物^{はれもの}を生^{しょう}じさせて、足の裏^{うら}から頭の頂^{たて}にまで及^{およ}ぼされるであろう。

三六 主はあなたとあなたが立てた王^{おう}とを携^{たず}えて、あなたもあなたの先祖^{せんぞ}も知らない国^{くに}に移^{うつ}されるであろう。あなたはそこで木^きや石^{いし}で造^{つく}ったほかの神々^{かみかみ}に仕^{つか}えるであろう。三七 あなたは主^{しゅ}があなたを追^おいやられるもろもろの民^{たみ}のなかで驚^{おどろ}きとなり、ことわざとなり、笑い草^{わらぐさ}となるであろう。三八 あなたが多くの種^{たね}を畑^{はたけ}に携^{たず}えて出^でても、その収獲^{しゅうかく}は少ないであろう。いなごがそれを食^くいつくすからである。三九 あなたがぶどう畑^{ばたけ}を作り、それにつちかっても、そのぶどう酒^{しゅ}を飲^のむことができず、その実^みを集^{あつ}めることもないであろう。虫^{むし}がそれを食^くべるからである。四〇 あなたの国^{くに}にはあまねくオリブの木^きがあるであろう。しかし、あなたはその油^{あぶら}を身^みに塗^ぬることができないであろう。その実^みがみな落ちてしまうからである。四一 むすこや、娘^{むすめ}があなたに生^うれても、あなたのものにならないであろう。彼^{かれ}らは捕^{とら}えられて行くからである。四二 あなたのもろもろの木^き、および地の産物^{さんぶつ}は、いなごが取^とって食^くべるであろう。四三 あなたのうちに寄留^{きりゆう}する他国人^{たこくじん}は、ますます高^{たか}くなり、あなたの上^{うへ}に出^でて、あなたはますます低^{ひく}くなるであろう。四四 彼^{かれ}はあなたに貸^かし、あなたは彼^{かれ}に貸^か

すことができない。彼^{かれ}はかしらとなり、あなたは尾^おとなるであろう。四五 このもろもろののろいが、あなたに臨^{のぞ}み、あなたを追^おい、ついに追^おいついて、あなたを滅^{ほろ}ぼすであろう。これはあなたの神^{かみ}、主^{しゅ}の声^{こゑ}に聞き従^{したが}わず、あなたに命^{いのち}じられた戒め^{いましめ}と定め^{さだめ}とを、あなたが守^{まも}らなかったからである。四六 これらの事^{こと}は長くあなたとあなたの子孫^{しそん}のうえにあつて、しるしとなり、また不思議^{ふしぎ}となるであろう。

四七 あなたがすべての物^{もの}に豊^{ゆた}かになり、あなたの神^{かみ}、主^{しゅ}に心^{こころ}から喜^{よろこ}び樂^{たの}しんで仕^{つか}えないので、四八 あなたは飢^うえ、かわき、裸^{はだか}になり、すべての物^{もの}に乏^{とほ}しくなつて、主^{しゅ}があなたにつかわされる敵^{てき}に仕^{つか}えるであろう。敵^{てき}は鉄^{てつ}のくびきをあなたのくびにかけ、ついにあなたを滅^{ほろ}ぼすであろう。四九 すなわち主^{しゅ}は遠^{とほ}い所^{ところ}から、地^ちのはてから一つの民^{たみ}を、はげたかが飛^とびかけるように、あなたに攻^せめきたらせられるであろう。これはあなたがその言葉^{ことば}を知らない民^{たみ}、吾^{われ}顔^{かほ}の恐^{おそ}ろしい民^{たみ}であつて、彼^{かれ}らは老人^{ろうじん}の身^みを顧^{かへり}みず、幼^{おきな}い者をあわれまず、五〇 あなたの家畜^{かちく}が産^うむものや、地の産物^{さんぶつ}を食^くつて、あなたを滅^{ほろ}ぼし、穀物^{こくもつ}をも、酒^{さけ}をも、油^{あぶら}をも、牛^{うし}の子^こをも、羊^{ひつじ}の子^こをも、あなたの所に残^{のこ}さず、ついにあなたを全く滅^{ほろ}ぼすであろう。五一 その民^{たみ}は全国^{ぜんこく}ですべての町^{まち}を攻^せめ囲^{かこ}み、ついにあなたが頼^{たの}みとする、堅^{けん}固^こな高い石^{いし}がきをことごとく撃^うちくずし、あなたの神^{かみ}、主^{しゅ}が賜^{たま}わった国^{くに}のうちのすべての町々^{まちまち}を攻^せめ囲^{かこ}むである

う。五三 あなたは敵に囲まれ、激しく攻めなやまされて、ついにあなたの神、主が賜わったあなたの身から生れた者、むすこ、娘の肉を食べるに至るであろう。五四 あなたがたのうちのやさしい、温和な男でさえも、自分の兄弟、自分のふところの妻、最後に残っている子供にも食物を惜しんで与えず、五五 自分が自分の子供を食べ、その肉を少しでも、この人々のだれにも与えようとはしないであろう。これは敵があなたのすべての町々を囲み、激しく攻め悩まして、何をその人に残さないからである。五六 またあなたがたのうちのやさしい、柔和な女、すなわち柔和で、やさしく、足の裏を土に付けようとしないう者でも、自分のふところの夫や、むすこ、娘にもかくして、五七 自分の足の間からでる後産や、自分の産む子をひそかに食べるであろう。敵があなたの町々を囲み、激しく攻めなやまして、すべての物が欠乏するからである。五八 もしあなたが、この書物にしるされているこの律法のすべての言葉を守り行わず、あなたの神、主というこの栄えある恐るべき名を恐れなければ、五九 主はあなたとその子孫の上に激しい災を下されるであろう。その災はきびしく、かつ久しく、その病氣は重く、かつ久しいであろう。六〇 主はまた、あなたが恐れた病氣、すなわちエジプトのもろもろの病氣を再び臨ませて、あなたの身につかせられるであろう。六一 またこの律法の書にのせてないもろもろの病氣と、もろもろの災とを、主はあなた

が滅びるまで、あなたの上に下されるであろう。六二 あなたがたは天の星のように多かったが、あなたの神、主の声に聞き従わなかったから、残る者が少なくなるであろう。六三 さきに主があなたがたを良くあしらい、あなたがたを多くするのを喜ばれたように、主は今あなたがたを滅ぼし絶やすのを喜ばれるであろう。あなたがたは、はいて取る地から抜き去られるであろう。六四 主は地のこのはてから、かのはてまでのもろもろの民のうちにあなたがたを散らされるであろう。その所で、あなたもあなたの先祖たちも知らなかった木や石で造ったほかの神々にあなたは仕えるであろう。六五 その国々の民のうちであなたは安きを得ず、また足の裏を休める所も得られないであろう。主はその所で、あなたの心をおのかせ、目を衰えさせ、精神を打ちしおれさせられるであろう。六六 あなたの命は細い糸にかかっているようになり、夜昼恐れおののいて、その命もおぼつかなく思うであろう。六七 あなたが心にいだく恐れと、目に見るものによって、朝には『ああ夕であればよいのに』と言ひ、夕には『ああ朝であればよいのに』と言うであろう。六八 主はあなたを舟に乗せ、かつてわたしがあなたに告げて、『あなたは再びこれを見ることはない』と言った道によって、あなたをエジプトへ連れもどされるであろう。あなたがたはそこで男女の奴隸として敵に売られるが、だれも買う者はないであろう。

第二章

「これは主がモーセに命じて、モアブの地でイスラエルの人々と結ばせられた契約の言葉であつて、ホレブで彼らと結ばれた契約のほかのものである。」

二モーセはイスラエルのすべての人を呼び集めて言った、「あなたがたは主がエジプトの地で、パロと、そのすべての家来と、その全地にせられたすべての事をまのあたり見た。三すなわちその大きな試みと、しるしと、大きな不思議とをまのあたり見たのである。四しかし、今日まで主はあなたがたの心に悟らせず、目に見させず、耳に聞かせられなかった。五わたしは四十年の間、あなたがたを導いて荒野を通らせたが、あなたがたの身に付けた着物は古びず、足のくつは古びなかった。六あなたがたはまたパンも食はず、ぶどう酒も濃い酒も飲まなかった。こうしてあなたがたは、わたしがあなたがたの神、主であることを知るに至った。七あなたがたがこの所にきたとき、ヘシボンの王シホンと、バシヤンの王オグがわれわれを迎えて戦ったが、われわれは彼らを撃ち敗つて、八その地を取り、これをルベンびとと、ガドびとと、マナセびとの半ばとに、嗣業として与えた。九それゆえ、あなたがたはこの契約の言葉を守つて、それを行わなければならない。そうすればあなたがたのするすべての事は栄えるであろう。」

一〇あなたがたは皆、きよう、あなたがたの神、主の前に立っている。すなわちあなたがたの部族のかしらたち、

長老たち、つかさたちなど、イスラエルのすべての人々、二あなたがたの小さい者たちも、妻たちも、宿営のうちに寄留している他国人も、あなたがたのために、たぎぎを割る者も、水をくむ者も、みな主の前に立つて、三あなたの神、主が、きよう、あなたと結ばれるあなたの神、主の契約と誓いとに、はいるうとしてゐる。四これは主がさきにあなたに約束されたように、またあなたの先祖アブラハム、イサク、ヤコブに誓われたように、きよう、あなたがたを立てて自分の民とし、またみずからあなたの神となられるためである。五わたしはただあなたがたとだけ、この契約と誓いとを結ぶのではない。六きよう、ここで、われわれの神、主の前にわれわれと共に立つてゐる者ならびに、きよう、ここにわれわれと共にいない者とも結ぶのである。

一六われわれがどのようににエジプトの国に住んでいたか、どのようにに国々の民の中を通ってきたか、それはあなたがたが知っている。一七またあなたがたは木や石や銀や金で造った憎むべき物と偶像とが、彼らのうちにあるのを見た。一八それゆえ、あなたがたのうちに、きよう、その心にわれわれの神、主を離れてそれらの国民の神々に行つて仕える男や女、氏族や部族があつてはならない。またあなたがたのうちに、毒草や、にがよもぎを生ずる根があつてはならない。一九そのような人はこの誓いの言葉を聞いても、心に自分を祝福して『心をかたくなにし

て歩んでもわたしには平安がある』と言うであらう。そうすれば潤った者も、かわいた者もひとしく滅びるであらう。二〇主はそのような人をゆるすことを好まれない。かえって主はその人に怒りとねたみを発し、この書物にしろされたすべてののろいを彼の上に加え、主はついにその人の名を天の下から消し去られるであらう。二三主はイスラエルのすべての部族のうちからその人を区別して災をくだし、この律法の書にしろされた契約の中のもろもろののろいのようにされるであらう。二四後の代の人、すなわちあなたがたのうちに起るあなたがたの子孫および遠い国から来る外国人は、この地の災を見、主がこの地にくだされた病氣を見て言うであらう。二五——全地は硫黄となり、塩となり、焼け土となって、種もまかれず、実も結ばず、なんの草も生じなくなつて、むかし主が怒りと憤りをもって滅ぼされたソドム、ゴモラ、アデマ、ゼボイムの破滅のようである。二六すなわち、もろもろの国民は言うであらう、『なぜ、主はこの地にこのようなことをされたのか。この激しい大いなる怒りは何ゆえか。二五そのとき人々は言うであらう、『彼らはその先祖の神、主がエジプトの国から彼らを導き出して彼らと結ばれた契約をすて、二六行つて彼らの知らない、また授けられない、ほかの神々に仕えて、それを拝んだからである。二七それゆえ主はこの地にむかつて怒りを発し、この書物にしろされたもろもろののろいをこれにくだし、二八そし

て主は怒りと、はげしい怒りと大いなる憤りとをもって彼らをこの地から抜き取つて、ほかの国に投げやられた。今日見るとおりである。二九隠れた事はわれわれの神、主に属するものである。しかし表わされたことは長くわれわれとわれわれの子孫に属し、われわれにこの律法のすべての言葉を行わせるのである。

第三〇章 一わたしがあなたがたの前に述べたのもろもろの祝福と、のろいの事があなたに臨み、あなたがあなたの神、主に追いやられたもろもろの国民のなかでこの事を心に考へて、二あなたもあなたの子供も共にあなたの神、主に立ち帰り、わたしが、きよう、命じるすべてのことにおいて、心をつくし、精神をつくして、主の声に聞き従うならば、三あなたの神、主はあなたを再び栄えさせ、あなたをあわれみ、あなたの神、主はあなたを散らされた国々から再び集められるであらう。四たといあなたがたが天のはてに追いやられても、あなたの神、主はそこからあなたを集め、そこからあなたを連れ帰られるであらう。五あなたの神、主はあなたの先祖が所有した地にあなたを帰らせ、あなたはそれを所有するに至るであらう。主はまたあなたを栄えさせ、数を増して先祖たちよりも多くされるであらう。六そしてあなたの神、主はあなたの心とあなたの子孫の心に割礼を施し、あなたをして、心をつくし、精神をつくしてあなたの神、

主を愛させ、こうしてあなたに命を得させられるであらう。七あなたを憎む者、主はまた、あなたを迫害する敵と、あなたを憎む者と共に、このもろもろののろいをこうむらせられるであらう。八しかし、あなたは再び主の声に聞き従い、わたしが、きょう、あなたに命じるすべての戒めを守るであらう。九そうすればあなたの神、主はあなたのするすべてのことと、あなたの身から生れる者と、家畜の産むものと、地に産する物を豊かに与えて、あなたを榮えさせられるであらう。十すなわち主はあなたの先祖たちを喜ばれたように再びあなたを喜んで、あなたを榮えさせられるであらう。一〇これはあなたが、あなたの神、主の声に聞きしたが、この律法の書に記された戒めと定めとを守り、心をつくし、精神をつくしてあなたの神、主に帰するからである。

二わたしが、きょう、あなたに命じるこの戒めは、むずかしいものではなく、また遠いものでもない。三これは天にあるのではないから、『だれがわれわれのために天に上り、それをわれわれのところへ持ってきて、われわれに聞かせ、行わせるであらうか』と言うに及ばない。四またこれは海のかたにあるのではないから、『だれがわれわれのために海を渡って行き、それをわれわれのところへ携えてきて、われわれに聞かせ、行わせるであらうか』と言うに及ばない。五この言葉はあなたに、はなはだ近くあってあなたの口にあり、またあなたの心にあるから、あなたはこれをを行うことができる。六見よ、わたしは、きょう、命とさいわい、および死と災をあなたの前に置いた。七すなわちわたしは、きょう、あなたにあなたの神、主を愛し、その道に歩み、その戒めと定めと、おきてとを守ることを命じる。それに従うならば、あなたは生きながらえ、その数は多くなるであらう。八またあなたの神、主はあなたが行って取る地であなたを祝福されるであらう。九しかし、もしあなたが心をそむけて聞き従わず、誘われて他の神々を拝み、それに仕えるならば、一〇わたしは、きょう、あなたがたに告げる。あなたがたは必ず滅びるであらう。あなたがたはヨルダンを渡り、はいつて行って取る地でなく命を保つことができないであらう。一一わたしは、きょう、天と地を呼んであなたがたに対する証人とする。わたしは命と死および祝福とのろいをあなたの前に置いた。あなたは命を選ぶなければならない。そうすればあなたとあなたの子孫は生きながらえることができるであらう。一二すなわちあなたの神、主を愛して、その声を聞き、主につき従わなければならない。そうすればあなたは命を得、かつ長く命を保つことができ、主が先祖アブラハム、イサク、ヤコブに与えると誓われた地に住むことができるであらう。

第三 一章 一そこでモーセは続いてこの言葉をイスラエルのすべての人に告げて、二彼らに言った、「わた

しは、きよう、すでに百二十歳になり、もはや出入りすることはできない。また主はわたしに『おまえはこのヨルダンを渡することはできない』と言われた。三あなたの神、主はみずからあなたに先立って渡り、あなたの前から、これらの国々の民を滅ぼし去って、あなたにこれを獲させられるであろう。また主がかつて言われたように、ヨシユアはあなたを率いて渡るであろう。四主がさきにアモリびとの王シホンとオグおよびその地にされたように、彼らにもおこなって彼らを滅ぼされるであろう。五主は彼らをあなたがたに渡されるから、あなたがたはわたしが命じたすべての命令のとおりに彼らに行わなければならない。六あなたがたは強く、かつ勇ましくなければならない。彼らを恐れ、おのいてはならない。あなたの神、主があなたと共に行かれるからである。主は決してあなたを見放さず、またあなたを見捨てられないであろう。

七モーセはヨシユアを呼び、イスラエルのすべての人の目の前で彼に言った、「あなたはこの民と共に行き、主が彼らの先祖たちに与えると誓われた地に入るのであるから、あなたは強く、かつ勇ましくなければならない。八あなたは彼らにそれを獲させるであろう。九主はみずからあなたに先立って行き、またあなたと共におり、あなたを見放さず、見捨てられないであろう。恐れてはならない、おのいてはならない」。

一〇モーセはこの律法を書いて、主の契約の箱をかつぐレビの子孫である祭司およびイスラエルのすべての長老たちに授けた。一一そしてモーセは彼らに命じて言った、「七年の終りごとに、すなわち、ゆるしの年の定めの際になり、かりいおの祭に、ニイスラエルのすべての人があなたの神、主の前に出るため、主の選ばれる場所に来るとき、あなたはイスラエルのすべての人の前でこの律法を読んで聞かせなければならない。一二すなわち男、女、子供およびあなたの町のうちに寄留している他国人など民を集め、彼らにこれを聞かせ、かつ学ばせなければならない。そうすれば彼らはあなたがたの神、主を恐れてこの律法の言葉を、ことごとく守り行うであろう。一三また彼らの子供たちでこれを知らない者も聞いて、あなたがたの神、主を恐れることを学ぶであろう。あなたがたがヨルダンを渡って行って取る地にながらえる日のあいだ常にそうしなければならない」。

一四主はまたモーセに言われた、「あなたの死ぬ日が近づいている。ヨシユアを召して共に会見の幕屋に立ちなさい。わたしは彼に務を命じるであろう。一五モーセとヨシユアが行って会見の幕屋に立つと、一六主は幕屋で雲の柱のうちに現れられた。その雲の柱は幕屋の入口のかたわらにとどまった。

一七主はモーセに言われた、「あなたはまもなく眠って先祖たちと一緒になるであろう。そのときこの民はたちあ

がり、はいつて行く地の異なる神々を慕つて姦淫を行い、わたしを捨て、わたしが彼らと結んだ契約を破るであらう。二七その日には、わたしは彼らにむかつて怒りを発し、彼らを捨て、わたしの顔を彼らに隠すゆえに、彼らは滅ぼしつくされ、多くの災と悩みが彼らに臨むであらう。そこでその日、彼らは言うであらう、『これらの災がわれわれに臨むのは、われわれの神がわれわれのうちにおられないからではないか』。二八しかも彼らがほかの神々に帰して、もろもろの悪を行うゆえに、わたしはその日には必ずわたしの顔を隠すであらう。二九それであなたがたは今、この歌を書きしるし、イスラエルの人々に教えてその口に唱えさせ、この歌をイスラエルの人々に対するわたしのあかしとならせなさい。三〇わたしが彼らの先祖たちに誓った、乳と蜜の流れる地に彼らを導き入れる時、彼らは食べて飽き、肥え太るに及んで、ほかの神々に帰し、それに仕えて、わたしを軽んじ、わたしの契約を破るであらう。三一こうして多くの災と悩みとが彼らに臨む時、この歌は彼らに対して、あかしとなるであらう。(それはこの歌が彼らの子孫の口にあつて、彼らはそれを忘れないからである。) わたしが誓った地に彼らを導き入れる前、すでに彼らが思いはかっている事をわたしは知っているからである。三二モーセはその日、この歌を書いてイスラエルの人々に教えた。

三三主はヌンの子ヨシユアに命じて言われた、「あなたは

イスラエルの人々をわたしが彼らに誓った地に導き入れなければならぬ。それゆえ強くかつ勇ましくあれ。わたしはあなたと共にいるであらう」。

三四モーセがこの律法の言葉を、ことごとく書物に書き終った時、三五モーセは主の契約の箱をかつぐレビびとに命じて言った、三六「この律法の書をとって、あなたがたの神、主の契約の箱のかたわらに置き、その所であなたにむかつてあかしをするものとしなさい。三七わたしはあなたのでそむくことと、かたくななことを知っている。きよう、わたしが生きながらえて、あなたがたと一緒にいる間ですら、あなたがたは主にそむいた。ましてわたしが死んだあととはどんなであらう。三八あなたがたの部族のすべての長老たちと、つかさたちをわたしのもとに集めなさい。わたしはこれらの言葉を彼らに語り聞かせ、天と地とを呼んで彼らにむかつてあかしさせよう。三九わたしは知っている。わたしが死んだのち、あなたがたは必ず悪い事をして、わたしが命じた道を離れる。そして後の日に災があなたがたに臨むであらう。これは主の悪と見られることを行い、あなたがたのすることをもって主を怒らせるからである」。

四〇そしてモーセはイスラエルの全会衆に次の歌の言葉を、ことごとく語り聞かせた。

第三二章

一「天よ、耳を傾けよ、わたしは語る、

地よ、わたしの口の言葉を聞け。言はれよ、わたしの

二わたしの教は雨のように降りそそぎ、

わたしの言葉は露のようにしたたるであろう。の

若草の上に降る小雨のように、いつてくる事は大い

青草の上にくだる夕立のように。大い

三わたしは主の名をのべよう、いつて来る事は大い

われわれの神に栄光を帰せよ。いつて来る事は大い

四主は岩であって、そのみわざは全く、いつて来る事は大い

その道はみな正しい。いつて来る事は大い

主は真実なる神であって、偽りなく、いつて来る事は大い

義であって、正である。いつて来る事は大い

五彼らは主にむかって悪を行い、いつて来る事は大い

そのきずのゆえに、もはや主の子らではなく、いつて来る事は大い

六よこしまで、曲ったやからである。いつて来る事は大い

七愚かな知恵のない民よ、いつて来る事は大い

あなたはたはこのようにして主に報いるのか。いつて来る事は大い

主はあなたを生み、あなたを造り、いつて来る事は大い

八あなたは堅く立てられたあなたの父ではないか。いつて来る事は大い

七いにしえの日を覚え、いつて来る事は大い

代々の年を思え。いつて来る事は大い

九あなたの父に問え、いつて来る事は大い

十彼はあなたに告げるであろう。いつて来る事は大い

十一長老たちに問え、いつて来る事は大い

八いと高き者は人の子らを分け、いつて来る事は大い

九諸国民にその嗣業を与えられたとき、いつて来る事は大い

イスラエルの子らの数に照して、いつて来る事は大い

十もろもろの民の境を定められた。いつて来る事は大い

主の分はその民であって、いつて来る事は大い

十一ヤコブはその定められた嗣業である。いつて来る事は大い

十二主はこれを荒野の地で見いだし、いつて来る事は大い

十三獣のほえる荒地地で会い、いつて来る事は大い

十四これを巡り囲んでいたわり、いつて来る事は大い

十五目のひとみのように守られた。いつて来る事は大い

十六二わしがその巢のひなを呼び起し、いつて来る事は大い

十七その子の上に舞いかけり、いつて来る事は大い

十八その羽をひろげて彼らをのせ、いつて来る事は大い

十九そのつばさの上にこれを負うように、いつて来る事は大い

二十主はただひとり彼を導かれて、いつて来る事は大い

二十一主はほかの神々はあずからなかった。いつて来る事は大い

二十二主は彼に地の高き所を乗り通らせ、いつて来る事は大い

二十三田畑の産物を食わせ、いつて来る事は大い

二十四岩の中から蜜を吸わせ、いつて来る事は大い

二十五堅い岩から油を吸わせ、いつて来る事は大い

二十六牛の凝乳、羊の乳、いつて来る事は大い

二十七小羊と雄羊の脂肪、いつて来る事は大い

二十八バシヤンの牛と雄やぎ、いつて来る事は大い

二十九小麦の良い物を食わせられた。いつて来る事は大い

三十

またあなたはぶどうのしるのあわ立つ酒を飲んだ。

二五 しかるにエシユルンは肥え太って、足でけた。

あなたは肥え太って、つややかになり、

自分を造った神を捨て、

救の岩を侮った。

二六 彼らはほかの神々に仕えて、主のねたみを起し、

憎むべきおこないをもって主の怒りをひき起した。

二七 彼らは神でもない悪霊に犠牲をささげた。

それは彼らがかつて知らなかった神々、

近ごろ出た新しい神々、

先祖たちの恐れることもしなかった者である。

二八 あなたは自分を生んだ岩を軽んじ、

自分を造った神を忘れた。

二九 主はこれを見、

そのむすこ、娘を怒ってそれを捨てられた。

三〇 そして言われた、

『わたしはわたしの顔を彼らに隠そう。』

わたしは彼らの終りがどうなるかを見よう。

彼らはそむき、もとるやから、

真実のない子らである。

三一 彼らは神でもない者をもって、

わたしにねたみを起させ、

偶像をもって、わたしを怒らせた。

それゆえ、わたしは民ともいえない者をもって、

彼らにねたみを起させ、
愚かな民をもって、彼らを怒らせるであろう。

三二 わたしの怒りによって、火は燃えいで、

陰府の深みにまで燃え行き、

地とその産物とを焼きつくし、

山々の基を燃やすであらう。

三三 わたしは彼らの上に災を積みかさね、

わたしの矢を彼らにむかつて射つくすであらう。

三四 彼らは飢えて、やせ衰え、

熱病と悪い疫病によって滅びるであらう。

わたしは彼らを獣の齒にかからせ、

地に這うものの毒にあたらせるであらう。

三五 外にはつるぎ、内には恐れがあつて、

若き男も若き女も、

乳のみ子も、しらがの人も滅びるであらう。

三六 わたしはまさに言おうとした、「彼らを遠く散らし、

彼らの事を人々が記憶しないようにしよう」。

三七 しかし、わたしは敵が誇るのを恐れる。

あだびとはまちがえて言うであらう、

「われわれの手が勝ちをえたのだ」。

これはみな主がされたことではない。』

三八 彼らは思慮の欠けた民、

そのうちには知識がない。

三九 もし、彼らに知恵があれば、これをさとり、

その身の終りをわきまえたであらうに。

三〇 彼らの岩が彼らを売らず、

主が彼らをわたされなかつたならば、

三二 どうして、ひとりで千人を追ひ、

ふたりで万人を敗ることができたであらう。

三三 彼らの岩はわれらの岩に及ばない。

われらの敵もこれを認めている。

三四 彼らのぶどうの木は、

ソドム、ぶどうの木から出たもの、

またゴモラの野から出たもの、

そのぶどうは毒ぶどう、

そのふさは苦い。

三五 そのぶどう酒はへびの毒のよう、

まむしの恐ろしい毒のようである。

三六 これはわたしのもとにたくわえられ、

わたしの倉に封じ込められているではないか。

三七 彼らの足がすべるとき、

わたしはあだを返し、報いをするであらう。

彼らの災の日は近く、

彼らの破滅は、

すみやかに来るであらう。

三八 主はついにその民をさばき、

そのしもべらにあわれみを加えられるであらう。

これは彼らの力がうせ去り、

つなかれた者もつなげられない者も、

もはやいなくなつたのを、主が見られるからである。

三七 そのとき主は言われるであらう、

『彼らの神々はどこにいるか、

彼らの頼みとした岩はどこにあるか。

三八 彼らの犠牲のあぶらを食ひ、

灌祭の酒を飲んだ者はどこにいるか。

立ちあがってあなたがたを助けさせよ、

あなたがたを守らせよ。

三九 今見よ、わたしこそは彼である。

わたしはほかに神はない。

わたしは殺し、また生かし、

傷つけ、またいやす。

わたしの手から救い出しうるものはない。

四〇 わたしは天にむかい手をあげて誓う、

『わたしは永遠に生きる。』

四一 わたしがきらめくつるぎをとぎ、

手にさばきを握るとき、

わたしは敵にあだを返し、

わたしを憎む者に報復するであらう。

四二 わたしの矢を血に酔わせ、

わたしのつるぎに肉を食わせるであらう。

殺された者と捕えられた者の血を飲ませ、

敵の長髪、頭の肉を食わせるであらう。』

四三 国々の民よ、主の民のために喜び歌え。

主はそのしもべの血のために報復し、

その敵にあだを返し、

その民の地の汚れを清められるからである」。

四四 モーセとヌンの子ヨシユアは共に行って、この歌の

言葉を、ことごとく民に読み聞かせた。四五 モーセはこの

言葉を、ことごとくイスラエルのすべての人に告げ終つ

て、四六 彼らに言った、「あなたがたはわたしに、きょう、

あなたがたに命じるこのすべての言葉を心におさめ、子

供たちにもこの律法のすべての言葉を守り行うことを命

じなければならぬ。四七 この言葉はあなたがたにとつて、

むなしき言葉ではない。これはあなたがたのいのちであ

る。この言葉により、あなたがたはヨルダンを渡って

行って取る地で、長く命を保つことができるであろう」。

四八 この日、主はモーセに言われた、四九 あなたはエリ

コに対するモアブの地にあるアバリム山すなわちネボ山

に登り、わたしがイスラエルの人々に与えて獲させるカ

ナンの地を見渡せ。五〇 あなたは登って行くその山で死に、

あなたの民に連なるであろう。あなたの兄弟アロンがホ

ル山で死んでその民に連なつたようになるであろう。

五一 これはあなたがたがチンの荒野にあるメリバテ・カデ

シの水のほとりで、イスラエルの人々のうちでわたしに

そむき、イスラエルの人々のうちでわたしを聖なるもの

として敬わなかったからである。五二 それであなたはわた

しがイスラエルの人々に与える地を、目の前に見るであ

ろう。しかし、その地に、はいることはできない」。

第三三章 一 神の人モーセは死ぬ前にイスラエルの

人々を祝福した。祝福の言葉は次のとおりである。

二 主はシナイからこられ、

セイルからわれわれにむかつてのぼられ、

パランの山から光を放たれ、

ちよろずの聖者の中からこられた。

三 まことに主はその民を愛される。

すべて主に聖別されたものは、み手のうちにある。

彼らはあなたの足もとに座して、

教をうける。

四 モーセはわれわれに律法を授けて、

ヤコブの会衆の所有とさせた。

五 民のかしらたちが集まり、

イスラエルの部族がみな集まった時、

主はエシユルンのうちに王となられた」。

六 「ルベンは生きる、死にはしない。

しかし、その人数は少なくなるであろう」。

七 ユダについては、こう言った、

「主よ、ユダの声を聞いて、

彼をその民に導きかえしてください。」

八 彼をその民に導きかえしてください。

その所で正しい犠牲をささげるであろう。

彼らは海の宮を吸い、

砂に隠れた宝を取るからである」。

二〇 ガドについては言った、

「ガドを大きくする者は、ほむべきかな。

ガドは、ししのように伏し、

腕や頭の頂をかき裂くであろう。

二一 彼は初穂の地を自分のために選んだ。

そこには將軍の分も取り置かれていた。

彼は民のかしらたちと共にきて、

イスラエルと共に主の正義と審判とを行った」。

二三 ダンについては言った、

「ダンはししの子であつて、

バシヤンからおどりでる」。

二四 ナフタリについては言った、

「ナフタリよ、あなたは恵みに満たされ、

主の祝福に満ちて、

湖とその南の地を所有する」。

二五 アセルについては言った、

「アセルは他の子らにまさつて祝福される。

彼はその兄弟たちに愛せられ、

その足を油にひたすことができるように。

二六 あなたが貫の木は鉄と青銅、

二六 「エシユルンよ、神に並ぶ者はほかにない。

あなたを助けるために天に乗り、

威光をもって空を通られる。

二七 とこしえにいます神はあなたのすみかであり、

下には永遠の腕がある。

敵をあなたの前から追い払って、

『滅ぼせ』と言われた。

二八 イスラエルは安らかに住み、

ヤコブの泉は穀物とぶどう酒の地に、

ひとりいるであろう。

また天は露をくだすであろう。

二九 イスラエルよ、あなたはしあわせである。

だれがあなたのように、

主に救われた民があるであろうか。

主はあなたを助ける盾、

あなたの威光のつるぎ、

あなたの敵はあなたにへつらい服し、

あなたは彼らの高き所を踏み進むであろう」。

第三四章 モーセはモアブの平野からネボ山に

登り、エリコの向かいのピスガの頂へ行つた。そこで

主は彼にギレアデの全地をダンまで示し、

ナフタリの全部、エフライムとマナセの地およびユダの全地を西の

海まで示し、

ミネゲブと低地、すなわち、しゅろの町エ

リコの谷をゾアルまで示された。

四そして主は彼に言わ

れた、「わたしはアブラハム、イサク、ヤコブに、これをあなたの子孫に与え、と言つて誓つた地はこれである。わたしはこれをあなたの目に見せるが、あなたはそこへ渡つて行くことはできない」。五こうして主のしもべモーセは主の言葉のとおりモアブの地で死んだ。主は彼をベテペオルに対するモアブの地の谷に葬られたが、今日までその墓を知る人はない。モーセは死んだ時、百二十歳であつたが、目はかすまず、気力は衰えていなかった。イスラエルの人々はモアブの平野で三十日の間モーセのために泣いた。そしてモーセのために泣き悲しむ日はついに終つた。

九ヌンの子ヨシユアは知恵の靈に満ちた人であつた。モーセが彼の上に手を置いたからである。イスラエルの人々は彼に聞き従ひ、主がモーセに命じられたとおりにおこなつた。イスラエルには、このちモーセのような預言者は起らなかつた。モーセは主が顔を合せて知られた者であつた。主はエジプトの地で彼をバロとすべての家来およびその全地につかわして、もろもろのしるしと不思議を行わせられた。三モーセはイスラエルのすべての人の前で大いなる力をあらわし、大いなる恐るべき事をおこなつた。

三「主はモーセに言ひ、
トスモエムは共ニ主の玉座に坐す者なり」と。
主はモーセに言ひ、
トスモエムは共ニ主の玉座に坐す者なり」と。
三「主はモーセに言ひ、
トスモエムは共ニ主の玉座に坐す者なり」と。
主はモーセに言ひ、
トスモエムは共ニ主の玉座に坐す者なり」と。
三「主はモーセに言ひ、
トスモエムは共ニ主の玉座に坐す者なり」と。
主はモーセに言ひ、
トスモエムは共ニ主の玉座に坐す者なり」と。

三「主はモーセに言ひ、
トスモエムは共ニ主の玉座に坐す者なり」と。
主はモーセに言ひ、
トスモエムは共ニ主の玉座に坐す者なり」と。
三「主はモーセに言ひ、
トスモエムは共ニ主の玉座に坐す者なり」と。
主はモーセに言ひ、
トスモエムは共ニ主の玉座に坐す者なり」と。
三「主はモーセに言ひ、
トスモエムは共ニ主の玉座に坐す者なり」と。
主はモーセに言ひ、
トスモエムは共ニ主の玉座に坐す者なり」と。